

萬國新聞紙
九八七
集集集

西垣文庫
文庫 10
7368
4





橫

濱

12230

出

萬國新聞紙

每得新報發

英國教師ベ...

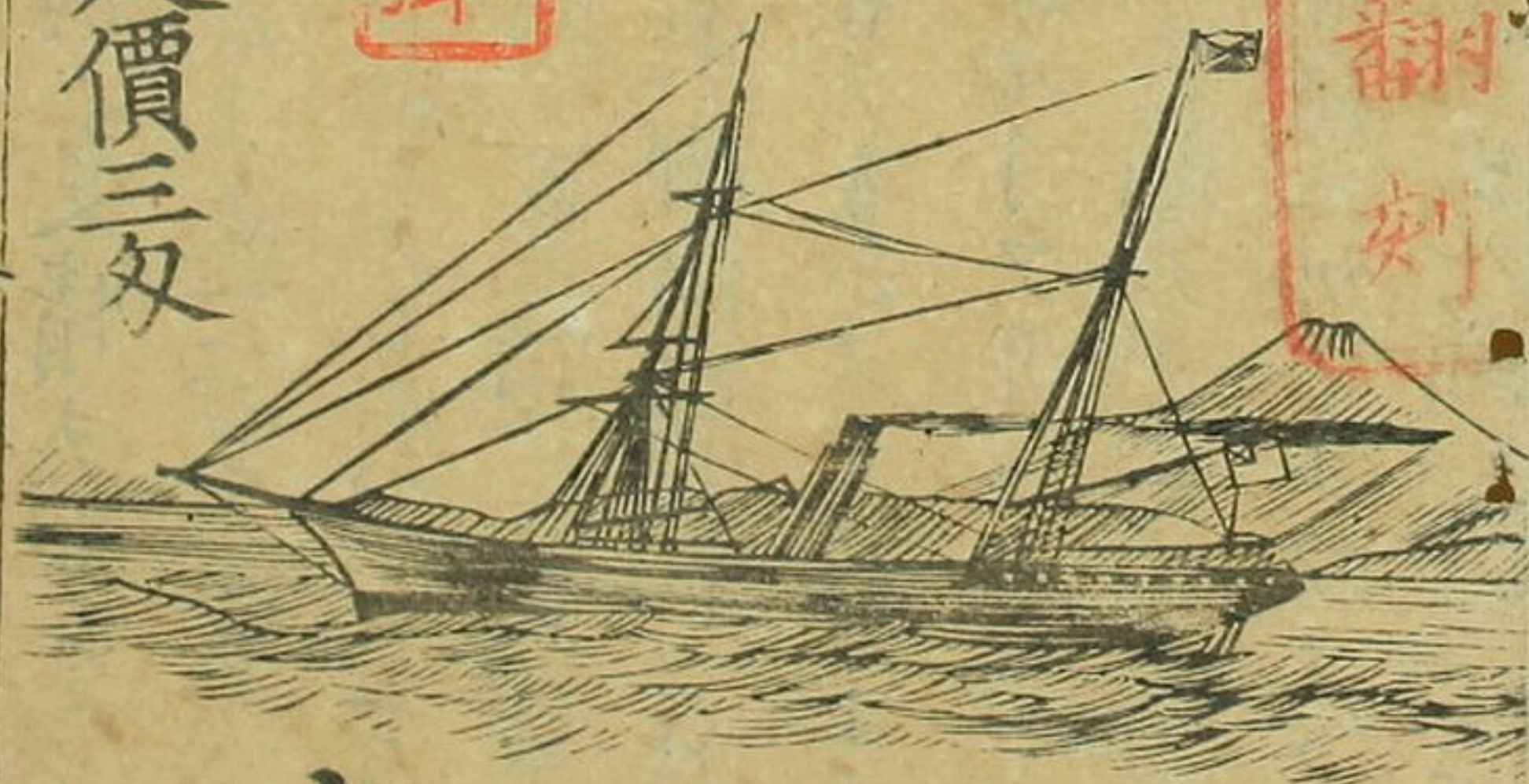
慶應三年十月上旬定價三匁



第七集

藤本文庫

翻刻



一千八百六十七年

五ハノイース

三六

7360

4

此萬國新聞紙ハ日本ノ諸君ニ萬國ノ支情ヲ知シメン為ニ作
 ルモノナリ。○日本ノ日ニ強大ニ開進ムヲ速ニシテ當今志ヲ
 ルノ諸君萬國ニ遊歴學問スルヲ自由ニナレルハ實ニ予等ノ
 大慶ナリ。今ノ時ニ當テ諸君萬國ノ支情ニ通達スルハ欠
 ベカラザルノ急務ナリ。○毎月二三度飛脚船新聞ヲ持来レバ
 直ニ出板ス。○此新聞紙ハ諸人ノ報告ヲ集ホメテ作レルナレバ
 間々疑ハシキコアリテ實虛分明ナラザルコアリト云レ予等
 明スト能ハズ。○諸君若ク玆説奇談ヲ聞バ橫濱本町通五
 十一番迄告ラルベシ然レバ直ニ此新聞紙ニ加入出板スベシ。○卷
 ノ終リニ横濱新聞ト出セシハ此地ヨリ出ル新聞ニシテ及中
 間ヲ設ケルアリ。諸君答アラバ百一番迄投却セラルベシ

大英國史

第四編 紀元三百九十年日本
崇峻天皇三年

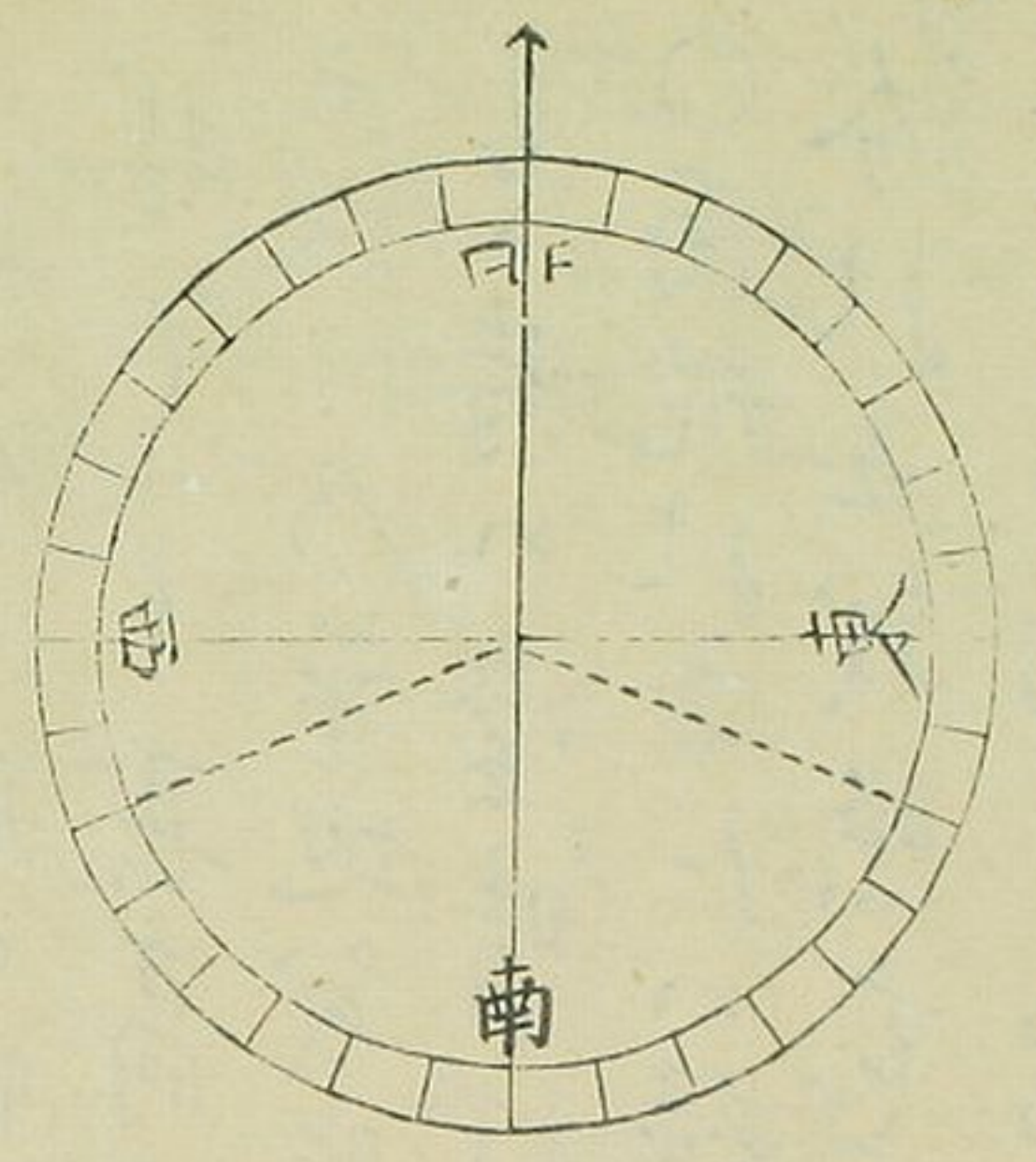


「サクソニ人分れて數種となれり然るも其中一乃テ
 ングルニある名族以て英國又名有さる「エングランド」エングランド
 ハ「アングラランド」アングラランドと云ふ或るよりつて英人族「アング
 ロサクソニ」と屢々呼り此頃「サクソニ」又七人乃頭あり何れ
 土地を領せり第一ハ「ケン」ケンと云ふより「第二ハ「ソウスサクソニ」
ソウルリ及び「ソウスサクソニ」即ち「ウセクス」ソウスサクソニの
 也「ク」を合む第三ハ「ウエストサクソニ」即ち「ウセクス」ソウスサクソニの
 西れ方ハ「ノ」國及び「テム」テムと云ふイギリス海峽の間ニある國
 族を合せて云ふ第四ハ「エツセクス」即ち「イーストサクソニ」テム
 ズを合せて北東北又ある國族を合す第五ハ「イーストアングリ」



7368
4

白燈と混ト認むる候以てへささきより見ゆる方
 小きある板れおやき者をして去れを掩ひ隔て
 へささきれ方より見ざる候要とす



「コムパス」三十二分
 乃圖

右二十方即ち八分れ五あり此おやきくなす時ハ
 日本里こして二里外に見つべし。此余の第八集に出すべし

横濱所役所或は役人衆より、茲仰越ひて大切成
 義を先達て「シヤツパンタイム」区 西洋新聞 紙所ありて報告仕し新聞
 紙に義の旨てハ私共始末又恐多く且恥入し義我
 御座其沙汰の趣ハ

我

大君其職を辭し尾張殿に讓り給ひし昔新聞
 紙「シヤツパンタイム」区に見ゆれども夫ハ妄説として
 信ぜらるるは甚く隆ん其職を奉り給へるはと世
 人皆知處あり

慶應三年 九月十四日

右の次第より早速「ヨウロ」ハ乃請國へ觸妄説を

差留可申上「シヤツパンタイム」新聞紙ハ西洋九月二十一日相
十朝ニ又出版仕十月一日^日又書狀^日以て「ヨウロツ」^日報
告仕ハ此一夏ハ恐らく「シヤツパンタイム」自己乃々覺
ふて委く問合も致さず報告せし^日相考へ申上殊々横
濱の役人衆より多分^日世話^日下新聞紙^日恐多も
大君非常乃御夏城申述其外身^日文休^日あり
政府^日於ても無益^日夏^日在^日且月莫大^日給料取
た^日右等^日不都合^日全^日ハ「シヤツパンタイム」^日勇^日の
裁^日「セール」乃誤^日り^日て誠^日之^日重^日く御役人^日様^日方^日其^日外
御役^日之^日對^日し^日を^日恐^日入^日依^日之^日此^日夏^日乃御詫^日乃^日と^日め
日本國^日の^日諸^日君^日子^日之^日報^日告^日仕^日上

次ハ新聞ハ「ヨウロツ」^日より飛脚船^日の持来^日リ^日物
より西洋^日第^日八月^日十七^日日^日相^日明^日追^日ハ新聞^日より又傳
信^日機^日より得^日る^日ハ西洋^日九月^日七日^日相^日明^日追^日の新聞^日あり

大英國

大英乃女王ハ「フランス」帝「ベルジヤ」王其外^日所^日の^日か
贈物^日致^日す^日ハ^日レ^日○女王^日ハ暑^日氣^日致^日凌^日く^日為^日て
「スコットランド」^日都^日す^日ハ^日滞^日留^日せん^日夏^日城^日定^日め^日られ^日レ^日
○英國太子乃妃ハ病氣^日全^日快^日され^日レ^日グ養生^日の^日
為^日て太子^日と^日と^日に^日近^日頃^日「セルマニア」の^日「ウイスバアデ」^日
ニ^日行^日れ^日レ^日此^日所^日又^日名^日高^日き^日温^日泉^日場^日あり^日故^日あり^日
也^日○「フリチ」屬國^日の^日「アペニア」國^日の^日王^日英^日人^日致^日禁^日

獄して戻さず甚ど強暴るるにやう「フリチ」の
 政府より軍馬を差るとに決定せり又「アペ」の
 肝要は港は火輪船を以て軍勢を向らる此所へ
 「エジプト」は奉行は住所にて幸ひ其奉行の軍
 勢は用ひる為は馬口バ免馬并駱駝等々備へて
 英國は助カせんとするあり「ブルム」は印度の
 附屬は役人軍勢揃へ「アペ」は發行す是は
 「ペ」の勅部甚ど目者さ所故に印度乃人を用ひて
 戦争をすするあり。此夏はあつるべきや「ヨウロ」は
 印度等の後便へて弟八集に出すべし。横
 濱は碇泊あり「プリ」はスロウエと云軍鑑は元日

本國に到着せり又二三年前横濱に居り「アスプレ」
 云船破船せり此れは全く其役は心を用ひざる
 故ありやして船主并「レ」は「ナ」は船主の
 罪せり礼しとせ

佛蘭西國

佛は太子「インペリ」は壯健乃為に最も養生を
 せり。日本 大君は尊弟民部大夫様御
 當今佛國「パリ」は在りて四年は間の諸学
 文操練等々を勤めと遊ばされ元より智
 仁よましくて勇ある御方様故日あつて
 御上達あり帝王「ナボ」は尤も尊弟の上

達志を以て其の願ひ日本に向て其功を顯はさん
ゆゑに依て「リフテナント」フロ子止むと止む命ト
て教諭を奉る。○「ヨウロップ」より日本近海を来る
る近路を求めん為北極に近傍を探索其為「ガリ
ハス」の施を金十方兩に及べり。○「北極世界」又百万兩に
雜費を以て「マルシル」に新に港を開く。○「パリ」に
は博覧會大に群集す日本は茶屋及び諸品
を大いに賞翫す又三人乃娘おくに おさと おまを
女子は日本乃衣服を珍らしとして人々を羨むる
此三女は「勤仕」しておれり。○近頃嚴しく嵐
ありて「メウ」云大河は土手崩れ諸州

水大木とも委しく吹倒し又一ヶ村の民家委しく
旋風は為屋根破失ふ其敬馬くへさの一度あり

プルシア國

「プルシア」王「フランス」の「エンプ」此間を於て大切なる
談話あり。○「プルシア」王「エルク」云大河あり
「パンボルク」の地を堀割此河に大船を通行させ又橋を
渡し諸方乃通路をせん。○「プルシア」は政府
は於て此企を已て決定せしむる併し其橋の地
り限りあり故に満潮に至りて如何なる魚も
○「パンボルク」は今高名なる港なる又右に如く
たのまは亦も繁栄花は地とあるべし

和蘭院國

此國より近頃恐るべき新聞故得たり夫ハ「ロツ
トルチ」の諸府内より「コレラ」編流行して近辺へ流
染む故に又「ヨウロツ」此國に就中南の方「イタリ
ヤ」此方へ傳染する故恐るより其外絶て聞む

ルシマ國

「カブリ」と云軍用火輪船日本并支那に所用せ
て出帆の命受け「クロスタン」の港において
十分支度故救正へ極寒に至らざる前に出帆致
し「ボルチック」の海越ルシマと「ボクハラ」との
間に碇泊せるより「ホワイ」トシ山_海に於て船

数多損亡せし次第ハ最初の寒氣より一時
又極寒に至るより其時碇泊せる船數凡
二百五十艘あり其内全一破壊せし物五十
艘水夫も乃救ひがとて見放せしハ
六十四又幸ひに損せざる物四十艘ありと○「イキ
リス」は屬する船十八艘破壊せしより「ブリチ
」の水夫は助を得て其余ハ安全なる者も故得
たり右十八艘乗合人数ハ三百三十人内百八十人ハ
「イギリス」人其他ハ此「ルウ」人なり此令
英國より助け為こ来りし一艘に乘移りしと
めて安んず心故得たりと

北ゼルマニア國

「ミリア」フウルテシボルク「バア」デシ此國々同盟四十六
て十二万乃兵戍集め「プルシア」の操練を學び旅
行れ用意也嚴重なり未夫有ハ「プルシア」れ命
戍以て其めらん

イスハニヤ國

此國總々る不近頃一揆起り騷動するすと
報告ハ傳信機よて得らん

トルコ國

「トルコ」至英國より歸りて此度自分れ思
い立よて「コンスタンチノブル」地は「イギリス」風習

て武藝云々此大學校戍建らるる

アメリカ國

此國「カロシヤ」乃或地面戍買請ため「ルキニ」
以「シ」重役の者九三万兩乃金を「カロシヤ」
贈る其也城大棟梁願へり併し十三四年前
に「クライ」之際は戰戍るせり今に忌嫌ハ
し又かく乃如きに至れり○「ニウヨルク」は
新聞氏中一奇談あり「アメリカ」ヨウロツハ乃間
乃海底ニ往來れ穴路を掘んと「インジ」子ル
の事ガ云出せり實又妄云るべし然れども其
政府に於てハ唯日教れ永らく心入費乃多

よ夏よせて決せずと有り其金高城計るに少く
とも二十億萬兩に下らずと云りの近頃「ミツシ
シ」に少く云大河は橋を渡さんと企り若此ま
成就せば長き夏世界第一とあるべし「アメリカ中
乃國」は「コレラ」病大に流行して死むる者多し
○北「アメリカ」に於て「インデヤ」乃人棟梁乃為よ大
苦役され居る夏能はず

メキシコ國

此國ハ「アメリカ」に隣りて居る諸人より有る
知より○先達て「メキシコ」乃以前乃棟梁「メクシ
リ」に乃死骸城「フルシヤ」乃「ニストル」よりて

荒サル夏城得タリ○妃「カルロツク」に殺犯され
「ヘルジア」國乃王「ソム」に「ヘルジア」乃女王ハカ
ルロツト乃為よ小姑有る故其病を治せんと自
ら看病城なせり然れども此病症城考ふる
恐らくは野心有る人乃為よ食物を妻菜城ま
進められし城食されしと思はる又其醫師乃
言葉ハ斯乃如く苦痛繁し其の恐らくは妻菜
乃為よて何ん併しカを尽し一医術城極め
なむバ速に全快有るべし

日本國

「イギリス」ニストル「ハルリ」パークス其妻并に朋

友と申すも又富士山之行て歸れり女人にて登立山也
ハ外國人にてハ此人最初なり○此度横濱
又トドル王乃抱極上手なる手づ岐遣ひ奥行
一見せし之實ニ目を敬馬らせり猶ツグまてあ
奥行志す一随分御慰又なり一寸以知せ
以上

一我此新聞氏心多きも遅くもれり猶ツグ
出板せざる新聞紙数多しれども紙数又限り
ゆの終追々出板せざる一此度乃板木ハ日本風の
物を不用石板れ上又文字板書摸て摺板木
替目んとする之頻りと心勞方せり此摺方を日

本人より羽日ハ熟さバ夫ハ并利あるを一猶
追々國許より種々の道具板取寄申さる一
○此度より新聞紙ハ價板減せり何卒世上
に廣まるる事ハ甚希か

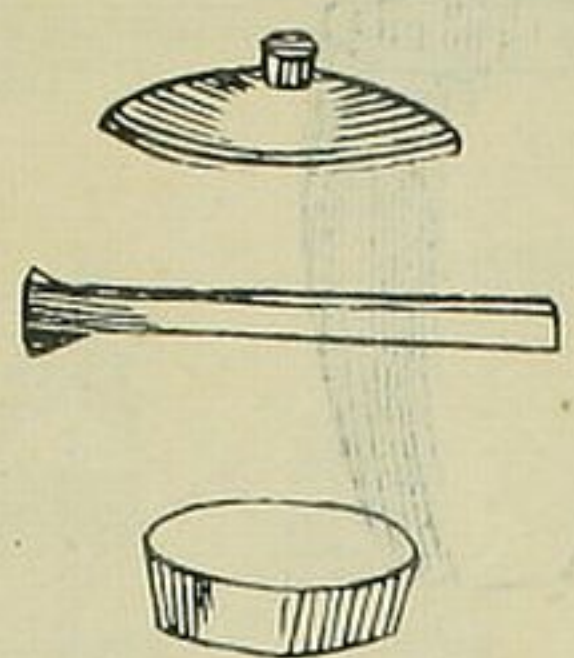
○翻譯に熟し一人ゆふ予抱へん其勞之報
ゆ乃金の贈り且讀書も教也

帆前船并蒸氣船之入用るる品物悉く書付之致し
澤山御座い且又外國乃品々種々御座いを以正直
つし商内申い約定乃品或ハ損ト間違ハ
取戻し早速金子御返申い御買入を願い
長崎大浦
ケース社中

「アメリカ」江字同終業又易又ハ
見物遊歴之渡海之成の方ハハ
随分の老後可仕ハ

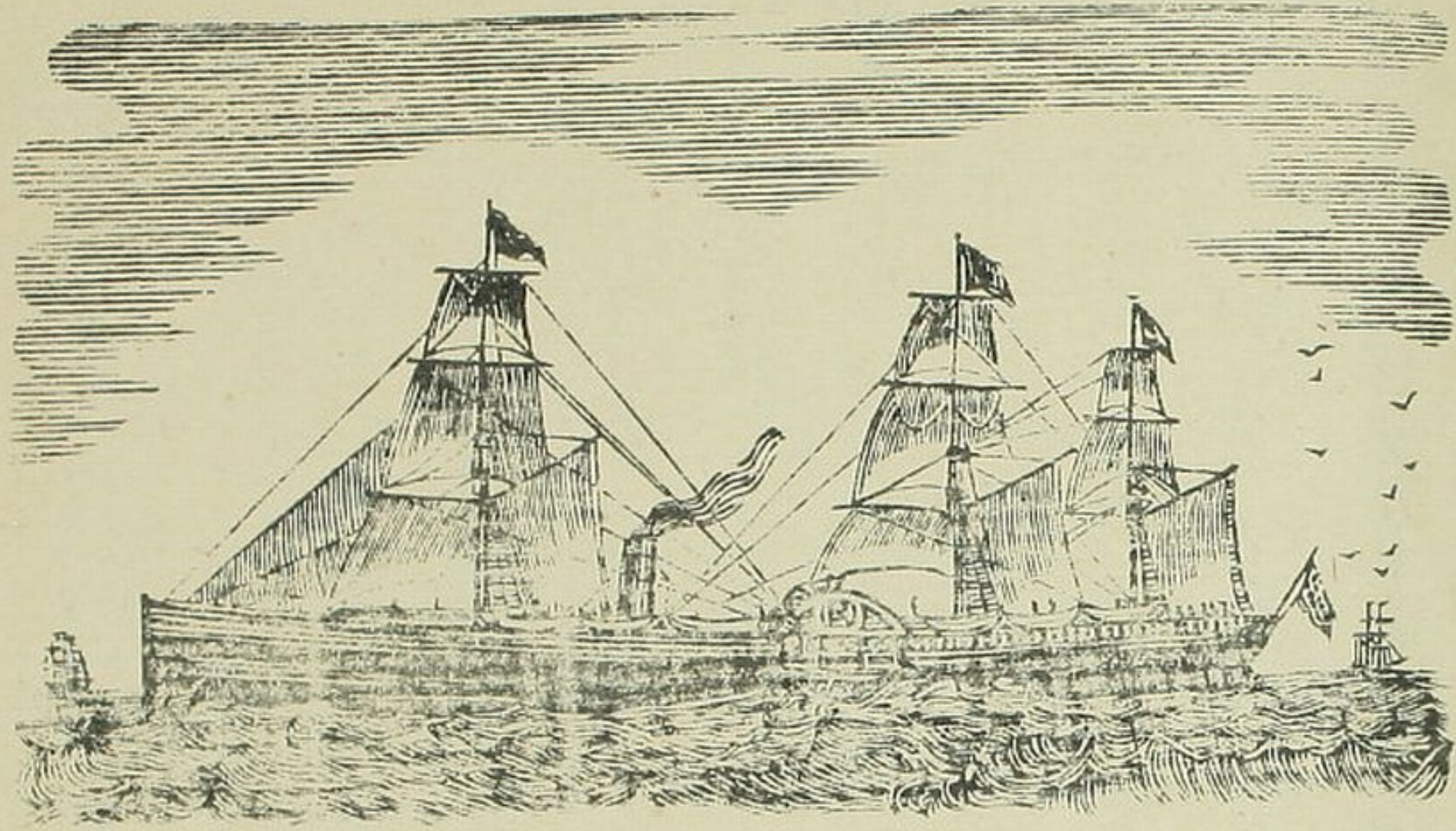
横濱九十三番

ウエニリート



ヘーテント
フルエムベ
ゴクルシフル
コムパニ

此鉗鍋の儀ハ兼て博覧會日に出
せし其甚ど稱羨致されハイギリ
ス、フランス并諸國乃金銀之座て
數年未相用ハハ其品ハ皆並の
品よりハ余程久しく烈火の上置
いても破れ不申金銀銅等鎔ハハ
早度五十度殊々ハハ百度位ハハ
相用ハハ申ハ又火よりハハ次第ハ
水に入いても破れ不申銅鉄を鎔
ハハ外ハ通例の品よりハ炭火費
ハハ幾者も千斤の銅鉄を鎔ハハ

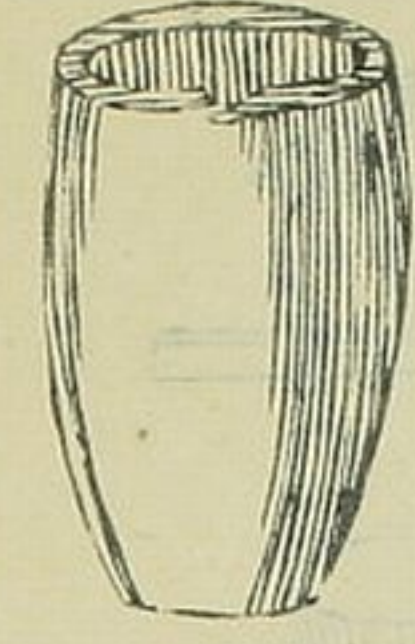


新製製造せる壯麗なる火輪船
 フレイト・シポブリク之香港を發して
 西洋十月二十三日横濱に來
 り碇泊する一日サンフランシスコ
 パナマ、メキシコ、ニューヨーク、南アメリカ
 等此所又送る書状并に旅人荷
 物等紙乃せて相立日サンフランシス
 コへ行べし 蒸氣船「チイヤイ子」
 十月九日横濱横濱に來り同月
 十日頃香港又行べし 蒸氣船
 「ゴスタリ」十月二十三日横濱上海

ロンドン

ハッテルシー

制衣造所



千五百斤此炭相余り且速に鑄り
 申し幾度も此用は故鑄りして鉗鍋
 余り自は費も少くは費へを省きは所
 宜山灰此余りを計りてハ夫づりても
 此鉗鍋此價はより余計に御座は尤
 も大甘は御好次身十五匁入り何斤入
 る辨へ由は分量ハ蓋に相記し申し
 此印ハ手前制衣造乃印は
 左様御兼知可被下し
 横濱ボイル
 長崎 ニルソンアンドボイル



香港より横濱に來り十月十日胡内海通りより長崎に通りて上海に至る一此美麗なる蒸氣船に実
 又遊旅又い交易を行く所の人は佳便と云へ一船に何れも
 堅固に造り旅客を慰めん為と諸品を備へ不自由なき
 よふせり今横濱より諸方に至る船賃を記ス○「サン
 ランシス」に上二百五十ドル 中百七十ドル 下五十ドル○「ニール」ヨルに
 上四百十ドル 中二百七十ドル 下百十ドル○長崎に上七十
 ドル 中六十ドル 下二十ドル○上海に上百ドル 中九十ドル 下
 二十ドル○右に内之食料夜具類其外要用品諸品
 及び病氣等此時療治代等皆其中に算入せり
 蒸氣船「ヨスカリ」日本に内海通りを往返す日本人所用に直に

一黒羅紗上着

一全 短衣

一全 股引

一白短カキ上着

一全 麻股引

一全 短衣

右の品々恰好仕立差上は間御注文を希は
 横濱五十三番

高名なる「ミル子」以外の鉄張箱の盗賊并に失火の節
 極大丈まで大小色々の求を願は

横濱二番

ウオルニホル

ハン、ピスケット、ボットル 此品私店に在る求を願は

横濱元町一丁目

中川屋嘉兵衛

十四ドルより二十四ドル迄

四ドル

七ドルより八ドル迄

二ドルより二ドル半迄

三ドル

金縁の義の好次男

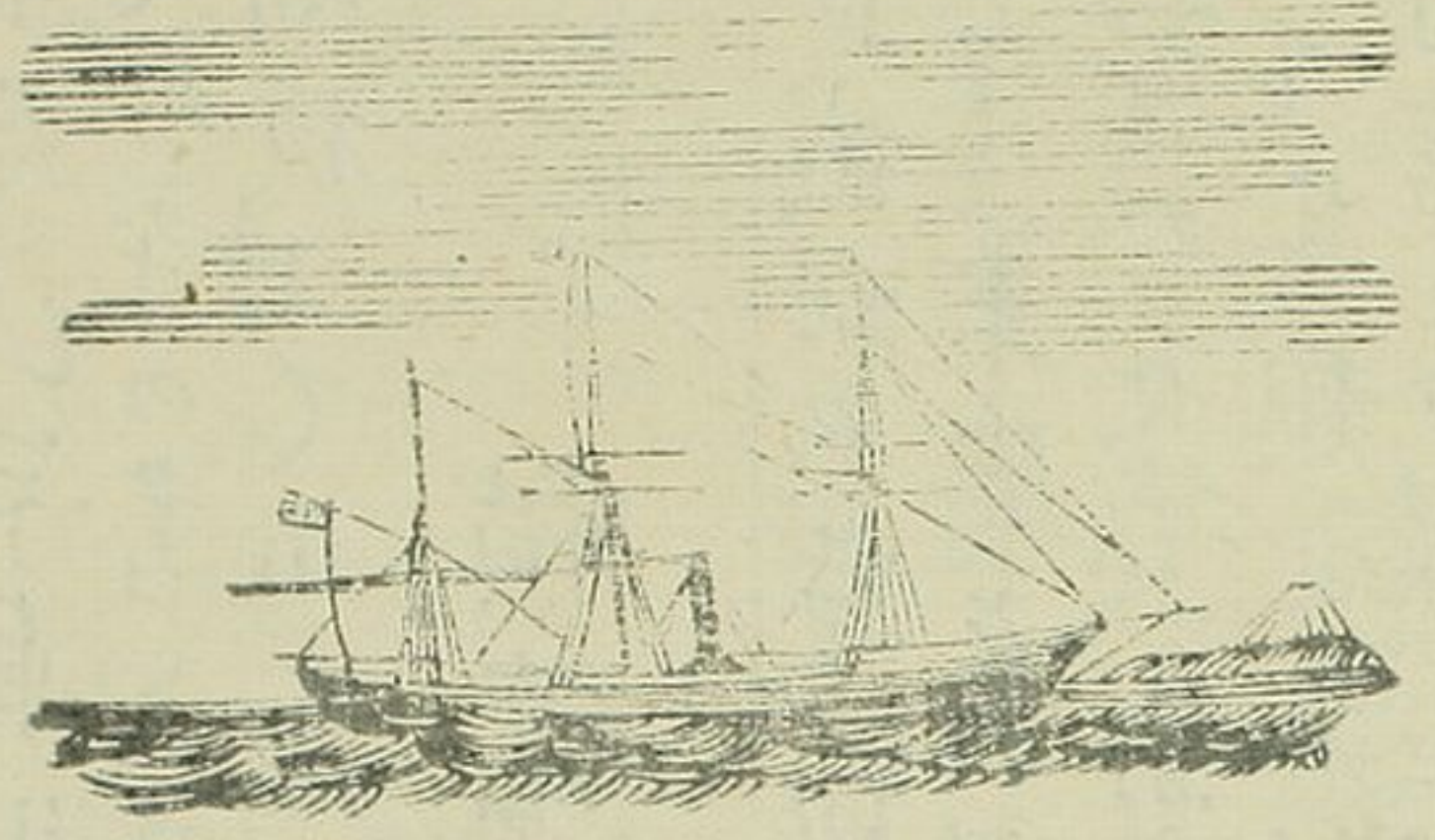
ラダール

私共写真鏡渡世仕以處此度手前方江蒙
御免忝たのくも

大君乃御姿、城事字以涉望れ以方ハ拙宅以出
可被下以 横濱二十四番 ビワト

私店にて外國に書衣服筆紙墨乃る以其外種く品
物商賣仕以御光来事希以 横濱百八番 ピールソソ

私店に外國商賣物余多仕在公折く迫賣も仕以間
御光来事希以 横濱八十二番 ボールン



佛蘭西國乃火輪船毎月六日
七日頃本國より五ジブトイン
支那を過て横濱に到着す此船
横濱三日碇泊の後十日十一日頃
支那インドヨウロツパ行旅人等
書狀荷物等積込出帆仕以若
書狀金銀荷物等運送れ御
用其外航海成度御方様ハ
十番迄御出可被下以
メサシエリエリアル 仲間出店
横濱十番 ワツスル

此度私店にて外國乃某種癩病瘡毒の妙薬「サ
パリラ」の根「エキストラクト」又濕瘡の奇薬「染料具制衣練」此
薬及び「写真術」「医術」「礦山術」等の「器械」其外「英佛
支那」等の「書文」「法地」「理算」「術測」「量航」「海字」「引」つぎも
新板にて「再版」の「光」未可被下也

横濱五十一番

ハルトリ

「器械」「制衣」「造一切」「鉄細工」仕仕「若生」「鉄鋼」「蒸氣」「器械」「鉄
船」「軍艦」「商船」大小の「船」「器械」の「用」こゝろ「本國」にて
政府の「器械」を「制衣」「造致」し「シヨ」「ペン」「エンド」「ソンス」を「申す」
尤も「其類」を「名」を得たる「方」より「別段」上「品」取寄可也
傳信「器械」も取寄組立可申間御注文奉願也

横濱六十九番

チウイット「ソールド」

大小「長短」種々「エンス」「ソールド」「ライフル」并「火薬」「雷管」の類
「商内」仕仕る「古買」を願也

横濱三番

ウイ「ルキン」
ロー「ベルソン」

私店にて「七日月」二度宛「外國品物」迫「買仕」此
段御披露申上也

横濱五十一番

フレ「ツチ」エル

諸御大名「衆様」方「其外」蒸氣「船御買入」被成也
御方「何卒」私方へ「被仰付」度「存願」也且「右舟」係也
一切「仕度」由「調」成「度」は「り」委細に「申上」は「る」也「注文」を「願也」
ペン「シラル」「エンド」「ナリ」「タル」「ステー」「子」「ウイ」「ゲ」「ン」「ム」

社中出張

横濱海岸十五番

テー「ウイ」ソン

夏物又ハ黒羅紗衣服類一組相揃へ白襯衣フリン子ル
 襯衣下股引襟白鼻拭い手代衣足代衣水目長水目合羽杖
 鞭馬具乃類到着仕の間中求可下以將又ハ入用の品
 所注文迄下以テ五寄差上ハ衣服も仕立申以テ注文の
 程ナ希ハ

横濱五十二番

ロスモンドウルク

私此度太田町八丁目百七十五番ニ特宅仕ハ
 私店マテ金銀時斗螺旋銃短銃并ニ火薬玉雷氣
 箱度量器拵樂器其外種々乃武器器固賣仕
 時斗飾玉乃直一も仕ハ品々御注文且御買入被
 下度奉願ハ

横濱太田町八丁目

ラブルブランド

時斗師



私方に英吉利産ハ牡取ニ足ハ産ハる若此
 種取度ハ思召レハ方ハ牡取ハ持メ可也此
 此段ハ披露仕ハ

横濱海岸通五番

ヌメツス

此度私國許より渡来ハ悉ク氣船数艘軍艦三艘商船数艘
 不殘賣物ハ在レ内商船三艘ハ別して牡取ナリ船
 且其外新製レブリチロドル并ニ諸西洋器物ハ五寄差
 出レハ何卒先未奉願ハ商又ハ何れハ急便にて取
 寄差上ハ

横濱二番

ウォルシホル

長壽商會

此等ニテ諸西洋藥品吟味精製衣賣出〜申以る四月
此方極ハ先未可下也

横濱百八番

ウエツタル

私共以前和蘭海軍外函ニ知ニ年前より横濱へ来リ
内外科共同業仕以此度各國一般此病院成立各國乃貴
賤差別なく療治仕以此病院地場家作都合共甚だ
病人に宜しく君又療治料此等ニ甘委細所聞合被
成度ハ病院又ハ百五十番迄の来駕可下也

横濱

ヨング
メーブル

横濱元町住居の中川屋某此度江戸高輪英吉利館
波戸場側ニ仮宅設開之肉類賣出〜此肉の性誠撰み
成丈下直ニ商内より扱牛肉ハ健康なる体ニ宜し〜乃
た〜或虚弱又ハ病身乃人或ハ病後ニ食す此バ氣力増
増身体を壯健ニ依て牛肉乃全体を圖ニ顯ハ〜其用ハ
方誠委〜知せ申も各方何卒澤山買入給ハ候ニ希カ

牛肉部分乃善悪又よりて五等ニ分ツ

- 第一等 一ニ九
- 第二等 四七
- 第三等 三五八十二十三
- 第四等 十四
- 第五等 六十九

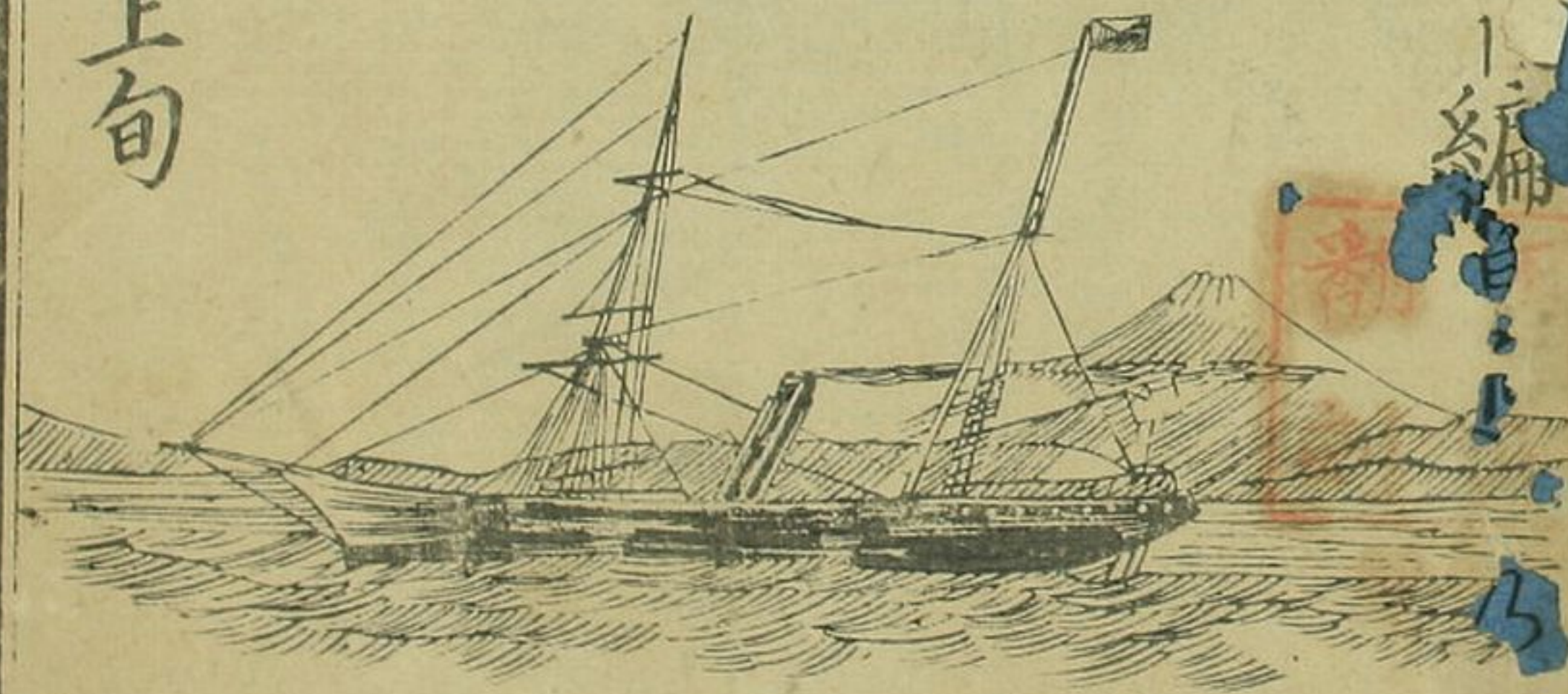
牛肉部分乃圖ニ用ハ方乃次第

萬國新聞紙

每得新報發

第八集

慶應三年十月上旬



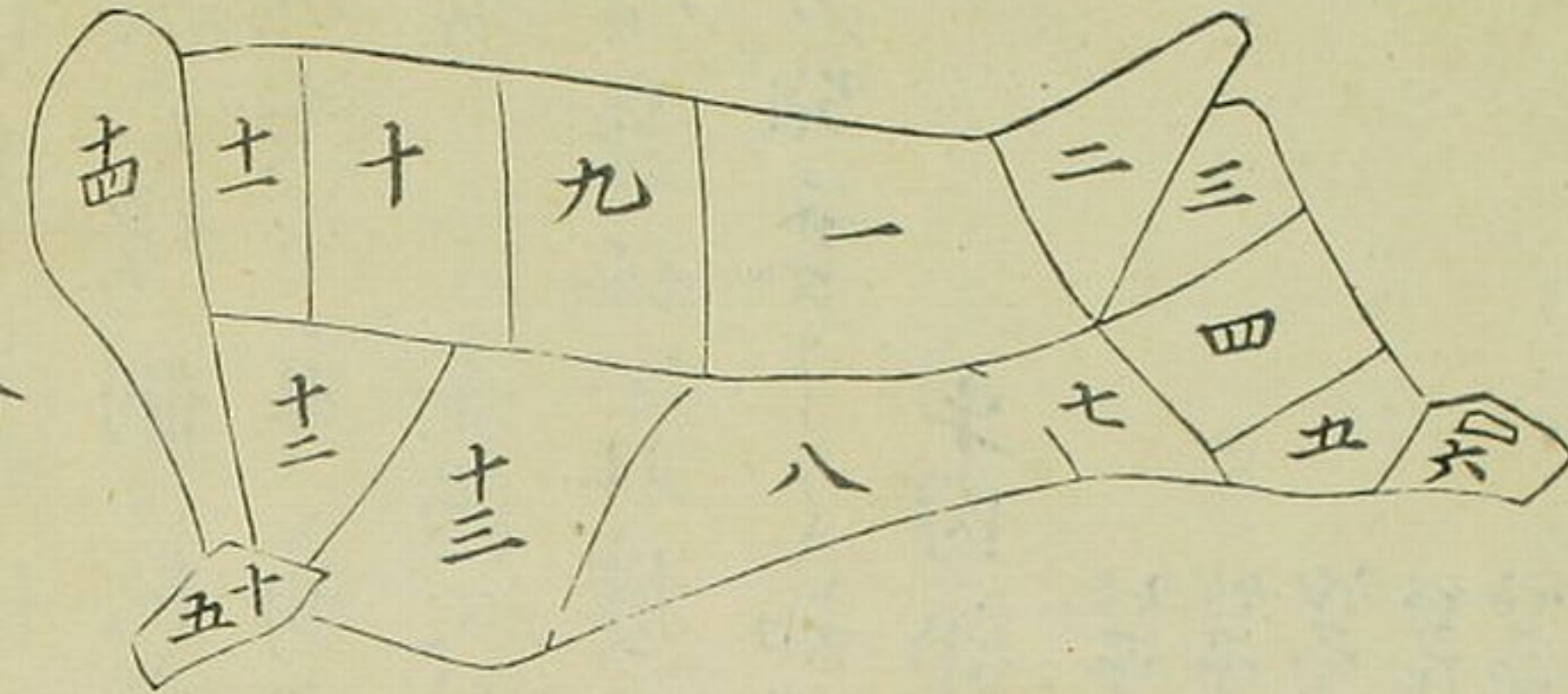
一千八百六十七年

橫濱出版

英國教師ベリ編

高輪英吉利館波戸場側

中川屋出店



- | | | |
|----|---------|------|
| 一 | 腰ノ部 | ロースト |
| 二 | 尾光ノ部 | ステイク |
| 三 | 尾下ノ部 | ボイル |
| 四 | 尻 | ボイル |
| 五 | 尻下ノ部 | ボイル |
| 六 | 膝ノ部 | ステイク |
| 七 | 厚キ脇腹 | ボイル |
| 八 | 薄キ脇腹 | ボイル |
| 九 | 前ノ肋骨五枚 | ロースト |
| 十 | 中ノ肋骨四枚 | ロースト |
| 十一 | 肩側ノ肋骨二枚 | ステーキ |
| 十二 | 肩下ノ部 | |
| 十三 | 胸 | |
| 十四 | 項頸 | |
| 十五 | 脛骨 | |
- 塩漬にてボイルセシ
スープクレウイストックパイサウセニ用フ

凡

例

此萬國新聞紙ハ日本乃諸君之萬國の支情致
 知志めん為之作礼也○日本此日之強大之開き進む
 支速ふして當今志める乃諸君万必之遊歴學
 同さる支自由之たの礼ハ予等の大慶なり今
 時之當りて諸君万必此支情之通達さるハ欠べ
 ざるの急務なり○毎月三度飛脚船新聞を持
 来礼バ直之出板也○此新聞紙ハ諸人の報告を
 めて作りし之の礼ハ間々疑ハリ之支情にて虚実
 明なきざる古支情も予等説く支能ハズ○諸
 君若珍説音談めらば知せ玉ハ之巻の終りに同を設
 くる所ハ諸君答めらば百一番送投却らるべし

「アメリ
成度

私宅
所入用

帆前

澤山

又高

速取

手願

来ル辰年此和英曆近日乃内
 不出板仕可申ハ在英國「ソシ
 デ」上逆書載申ハ所買請
 之奉希ハ横濱
 百一番

長崎大浦

ソース社中

金子所返ヤ上ハ何卒用社仰度

凡

例

此萬國新聞紙ハ日本乃諸君之萬國の交情ヲ
 知志めん為之作礼也。日本此日之強大ニ備テ進出
 其東亦して當今志める乃諸君万之遊歴學
 今般船未武具測量器外科醫時計
 衣服履雷管彈藥包其外一切相働
 下直之差上可申以有大小之少す所用
 向來仰舟以核奉願上以且外國へ注文
 諸品其義ハ同店横濱住居罷在候
 伊勢屋勝郎方にて行便利相成以核
 行老話可申上以

江戸中橋樋埋立地
 伊勢屋佐七

今の
 持
 集
 天分
 諸
 設

「アメリカへ學問修業交易又ハ見物遊歴渡海航
 成度四方へ随分由世話可仕也

横濱九十三番

ウエンリート

私宅まで諸西洋藥品吟味精製衣賣出〜以有
 所入用乃所方様ハ所光未可下也

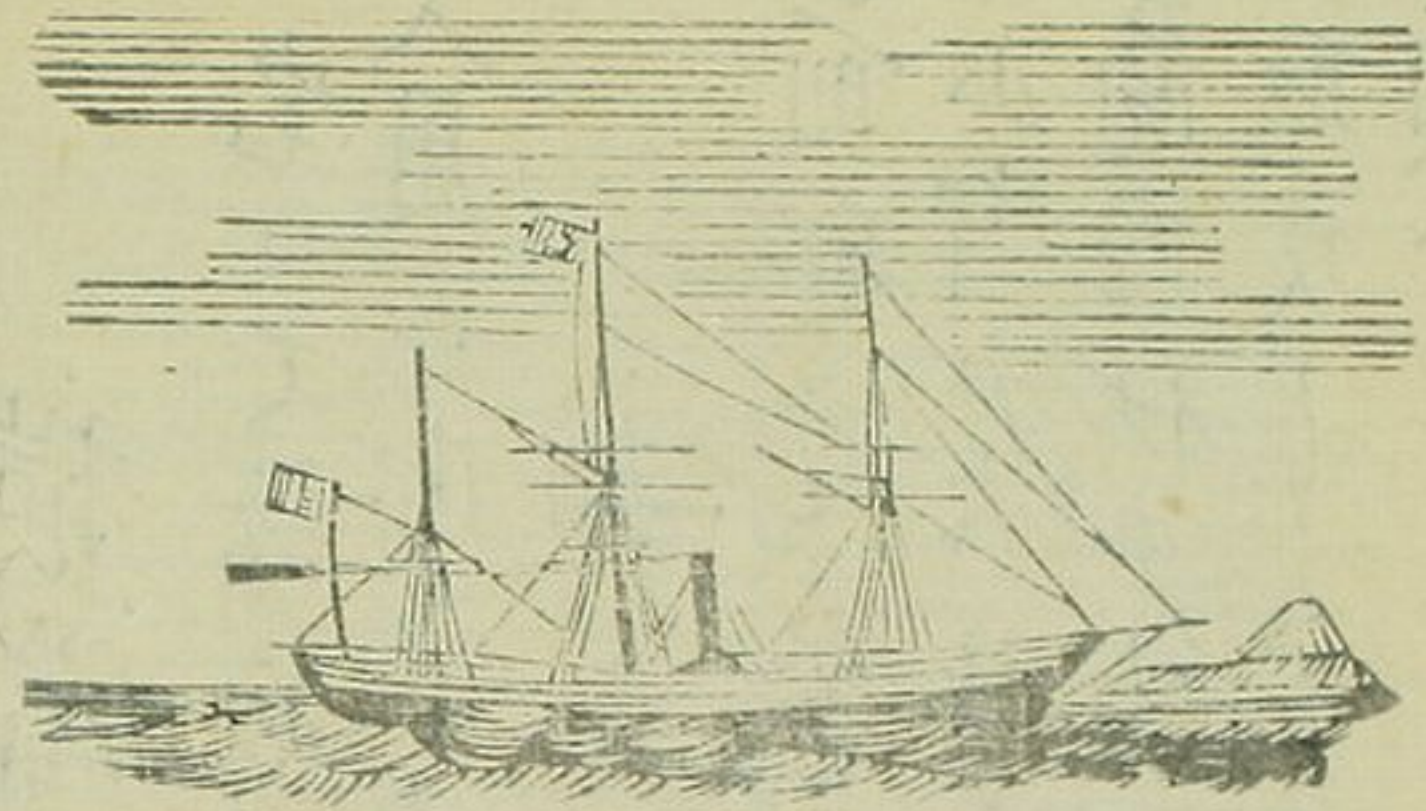
横濱百八番

ウエツタ

帆前船并蒸氣船入用なる品物悉く書付致
 澤山所在且又外國乃品も種々所在也尤も心直
 又商内仕以約定仕品或ハ損トる遠ハ以早
 速取戻〜金子所返〜上以何卒用致仰舟度
 存願也

長崎大浦

ソース社中



佛蘭西國乃火輪船每月六日
 七日頃本國より「エジプト」「インド」
 支那を過て横濱に到着す此船
 横濱に三日碇泊の後十日十日頃
 支那「インド」「ヨーロッパ」行旅人等
 書狀荷物等積込出帆仕ゆ若
 書狀金銀荷物等運送の所
 用其外航海に成度所方様ハ
 十番迄所出可成下ハ
 メサシエリエンペリアル 仲間出店
 横濱十番 ロッスル

私義写真鏡渡世仕ハ處此度手前方江家
 御免忝なく也

大君此御姿を写真以所望乃以方ハ私宅ハ出

可成下ハ

横濱二十四番

ピロト

私店て外國乃書衣服筆紙黒塗の類其外種々品
 物商内仕ハ所光来手希ハ

横濱百八番

ピールソシ

私店て外國商内物余多所社ハ折々迫賣も仕ハ間
 所光来手希ハ

横濱八十二番

ボールン

大小長短種これ「エンスイルド」ライフル并火薬雷管の類
商内仕ふる由買を願ひ

横濱三番

ウイールキン
ローベルソ

私店にて七日月二度宛外國品物追買仕る間此
段御披露申上

横濱五十一番

フレッチェル

諸御大名衆様方其外蒸氣船御買入被成
御方へ何卒私方へ被仰付度を願ひ且右舟に係
一切は夏田彌成度より委細申上仕る由注文を願ひ
ペニシラルエンドナリントルスティー子ウイゲーション
社申出張

横濱海岸十五番

デーウイソン



私方へ英吉利産乃牡豚二足仕る者此
種取度思召の由方へ牝豚四持来り成
此段披露仕

横濱海岸通五番 スメツス

此度私國元より渡来此蒸氣船數艘軍艦二艘高
船數艘不殘賣物仕る者此内商船三艘別して
壯麗なる船仕る由買取被下度直段成夫
格好相働可申且其外新制衣乃「ブリチロード」并諸
西洋器物もいふ等高買仕る由率由光来を願ひ尚又
此注文乃品へ急便に五寄可差上可申

横濱海岸通二番 ウォルシホール

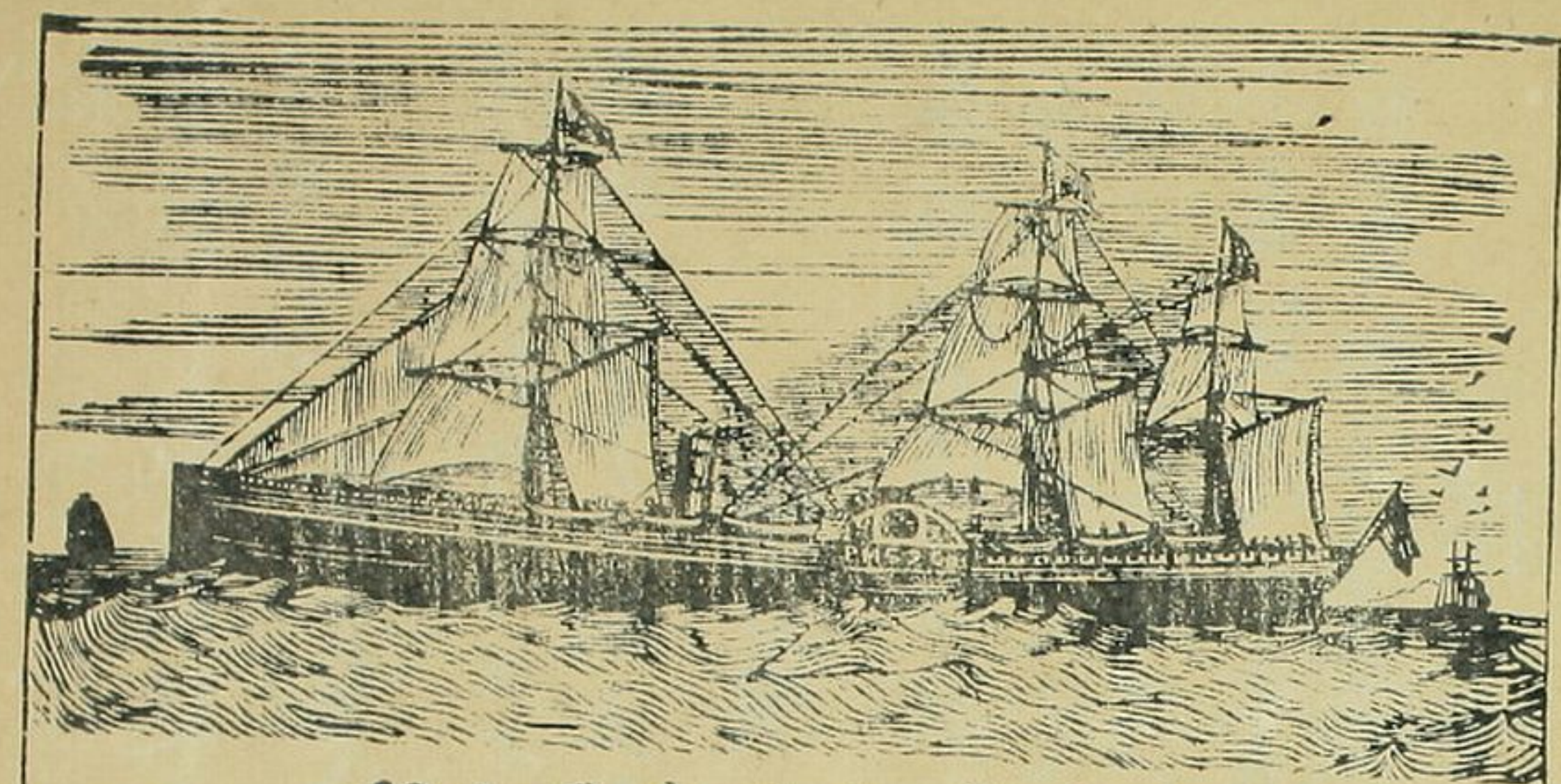
長寄商會

リネーシー社中

機械師 眞鍮鉄細工師
鍛冶師 蒸氣金師

右細工所横濱堀割此側百十七番之家作仕の耕
作乃道具乃圖紙差上可申間蒸氣風或ハ水に
て廻り米穀つく車金山堀堀機械蒸氣船及び蒸
氣乃機械等御注文の座の持へ申龍吐水乃類
と持へ又ハ補ひ出来申其外安賣丸破列丸並び
「モルチユ」製造る機械並び種々の戦争に用ゆる口
より止む申す火天紙持へ機械も製造仕の何卒
御用被仰付度ませ

ルスイ



亞米利加大輪船「グレートブリク」五月朔日頃
「サシラ」シスコより横濱へ来り一兩日碇泊
して香港へ行べし又折返し横濱へ来
五月廿七日頃再び「サシラ」シスコへ行べし
○蒸氣船「チャイナ」五月二日先長崎上海
行同二十七日頃横濱へ来り「バブリク」乃來
る候待「アメリカ」へ行べし○蒸氣船「ア
タリカ」五月二十七日頃横濱より新開港
乃兵庫へ荷物書狀又遊歴此方候も
乗行べし若日本北商人一所用且便船の
所用等の候は私方へ入来可下
亞米利加大飛脚船仲間
横濱海岸四番
フィンニ

私方にて諸荷預り金子代貨渡し可申し日本諸商人
借請成請返す節ハ元金并に利金少く何物引替
又可仕い

横濱八十一番

フワペル

横濱本町通五十一番「ハトリ」方へ万石新軍紙乃五
次此度より相止外へ五次せしむ此段門披西路仕い

横濱

百一番

各械製造一切鉄細工仕い若生鉄鋼魚氣各械鉄船并
軍鑑商船大小之船各械内入用之は本國にて政府各
械を製造致し「シヨ」ペン「エンド」ソ「ス」申さむ其類
小名致得たる方より別段上品取寄又傳信各械も
取寄組立可申間門注文を願い

横濱六十九番

チウツトイルド

大英國史

第五編

紀元五百九十年より八百年迄日本
山宗峻天皇三年より桓武天皇迄

此時は當りて造化主真神を拜する者ハ「フ」リトに人逃
行し「ウ」ル「ス」英國の西に當り及び他の山國に於ての
行ハれ「フ」リトに人「サ」クソに人となり戦争永まらば
リトに此僧徒「サ」クソに人造造化主真神を變化せしめん
哉かしも勉てせざりし然るに「サ」クソに人の其拜する
神「フ」リトに戦争に於て勝利致賜へし其後信ト
其奪ひしるる民ある「フ」リトに此宗門致賤くす然
れども此時は當りて造化主真神の教此全嶋に説行
乃時来礼り五百九十七年推古天皇「サ」クソに人等其真神

教へて説示さるゝ為教師等初めてブリタニヤに於て
「イギリス」又於て上陸せり此教師ハ「グレゴリー」ゼング
 レー止「グレゴリー」ハ其人ノ功徳ヲ言フナリハの羅馬代「ビシヨンプ」僧官
 乃遣せり者なり「グレゴリー」乃此鳩又教師也
 遣むとい初め此人羅馬國都府乃市場に於て
 奴僕又賣見れり「サクソ」乃子供等昔ハ人間ヲ奴僕
 二遣ハシ為賣買
セリ主トモ殺ストモ
 其買主乃心低ク見より大いに感して曰髪ハ美し
 く縮れ顔色ハ輝き此羨麗なる子供等ハ何者なり
 や耶穌宗門乃者なりや同タレバ其奴僕商人答
 へて不コ「アングル」人「セルマ」人ナリ則チ此所ニ「サクソ」
宗門ヲ云
 耶穌宗門乃國より来りくと「グレゴリー」大いに歎き又

云々ハ彼等ハ「アングル」神乃相めり神乃相めり天に在る
 神使の子とありん故又直しく「アングル」号をへり
「アングル」ハ「アングル」ハ原ハ字ニ
 其赫甚タヨク相似タル者ナリ夫よりして其日より耶穌に經
 傳「ゴス」ハハ「カリタニヤ」住居せる「ヘ」に宗此北車又説
 教へんとい又決し教師四十人又撰び集め「フォーガス」に
 と稱する僧又其長とす此教師等最初「セント」驥
の南ニシテ佛ニ
 近キ所ナリ又上陸せりハ其國王「エセル」止自から「フォー」
前ニ云「ウ」デニ
 同ジ又拜せりも其女王ハ耶穌宗門乃佛主王
 の女めたるよりこれ王教師等乃来る又爾時
 使者又遣り王彼等を目前に呼其説法を聽
 せよとい云りめ且其日を定め其日とすれば王自の

兵卒及び貴人城連城下^{其地カントル}を離れ地を座して^{十四}
迎へ入り然るより^一フォーガストに^ハ程なく其中間を引つぎ
堂とて^一心又祝典を^とあへた^らず^ら来り民又教
へん心^ハ欲せり^一ケ條を王又語まり王乃曰吾汝等
住屋及び其他此要用乃品を与へん汝等我民又
耶穌教を教へ^ハ然れども吾ハ此異宗門又成らざり
且先祖代々拜する所乃神を信する^ハ能ハ^ハず然る
ども此王「エセルベルト」ハ耶穌を信する^ハ能ハ^ハず然る
られ^一諸王内にて最初乃人なり此王ハ五百九十
七年^{前ニ}説明せし乃「ホウイット、ソングー」^{祭リノ日ニ}テ^{天ヨリ}聖^ニ
^テハ^ハ通例^ニ沐浴を受る^ハ耶穌宗門^ニ入時^ハ民ハ其^ハた^ハせ^一り^ハ夏

好^ク之^ノ同年の「クリストマス」^{耶穌ノ誕}生^ノ日^{ナリ}西洋^ニ三^ニ万人^ノ君^等
集^一りて沐浴を受^一其後「ゴス」^ハ英國^ノ他^ノ部^ニ
て説礼人民次第^ニ其偽神^ヲ撥^キ併^一り^ハた^らず^ら
七^ツレ^ハ王^ノ國^ニ^{前編ニ}記^スル^ハ如^ク英^ハ比^自「クリステ」^ニ國^ト号^ス
せる^ハ前^ニ余^ノ程^古き^ハ夏^{ナリ}^{古キ}年^{ヨリ}モ^此七^ヶ國[「]クリステ^ニ
と号^スる^ハ頃^ニです^ら數^多人^ハ失^張戦^争を^好め^り故^ニ
英^ハよ^テハ^ハ太平^ノ乃^時稀^{ナリ}一^〇教師^等^提耶穌^ノ
ナリ^其住^{せる}所^ニて^ハ數^多乃^善夏^ヲ成^たせ^り大^ノ寺^ヲ
建^て一^所又^住す^者ハ^地に^植付^者ハ^民又^石木^金等^獨
等^ノ細^ユを^教へ^又学^校を^建て^小供^等を^教へ^此時^數
の^英人[「]セルマ^ニの^北部^ニテ^子マルカ[「]ス^ウー^デン[」]及^バル^左止^ハ教^行
五

第四

蒸氣引船乃燈

蒸氣船他乃船或引時ハ両脇ニ燈リ或自并白
糶きたる燈或帆柱乃上ニツ縦ニ並べて付べし是ハ
此船と他乃蒸氣船或區別をためたり帆柱
燈リハ他乃蒸氣船の照して居燈りと同様なる
べし

第五

帆前船乃燈

帆前船走りて居時或ハ引誘る時白き帆柱燈ニ
乃外ハ走りて居蒸氣船乃燈リ也同様なる燈リ

或付べし白き帆柱燈ハ帆前船にてハ決して付べ
らず

第六

小帆前船燈リ別段なる筒條乃燈

天氣乃悪き時緑燈及び紅燈或帆柱の上ニ付
しき時ハ甲板乃上に各々其持前付べき脇ニ付べ
し若其或の時ハ真に是或見且自由にて置べし
自然他船ニ近より居る時と他船我船ニ近より
時ハ互ハ突當る或防ぐ為久しき居是をせ
べし尤も其燈リよく見ると出さずし緑燈或
取舵側に見せむ面舵側ニ付置たり今此所で云む

らり側へ入る程又出す候云々あり且紅燈候面舵
側へ見度あり候也○此持運ぶべき燈り此用ひ方候
手軽くするもよへ燈り此玻璃候繪乃具を以て
ぬる也ー其上相應ーするも候備へ置ー

碇卸しする時乃船燈

蒸氣船帆前船より口ロドスエド船ノ碇ヲ卸又ハ「フエイ
ル」エシ船入時出帆する時通行する港又ハ川
等候云々あり碇り候下ーする時ハむもよー諸方を
照らす所ノ押板ノ上ヨリ二十又
スキナル程ノ高サニシう渡ー六寸五歩程乃圓白
玻璃燈竹籠の因に燈り候台て上るなり此燈り諸方
照らす光りを發せしめ少ありやも十五丁隔て
連する程に見つこー

外國新軍畧

○我北軍近頃歐羅巴より得たる新聞ハ西洋十月
二十一日ニ據テ「エイ」デニ云英吉利飛脚船の持来
りー所ナリ其時「ロ」ドニより乃書狀ニ其日書
西洋九月十六日日本八月十九日あり且傳信機乃便り
西洋十月十六日日本九月十九日又通せりとあり○亞國より
近頃得たる新聞ハ此度太平洋海飛脚船社甲新
造りする「チヤイナ」云々船乃持来れり此支派な
る蒸氣船十月十二日十九日胡ニ傳信機を以歐羅巴より

得たる新軍を以て十月十四日九朝乃午に刻又「サンフ
ランシス」に戦出帆し一月六日朝午乃刻又横濱に
到着せり

大英国

阿蘭院国に女王英國見舞を行んと西洋九月十八日
二時ハ明英に都府「ロンドン」に到着せり。近頃歐羅巴
乃諸王互ひて見舞合を度屢あるに我北軍にむもよ
物にむしき所あり此屢見舞合を度互ひて親情
に徴したるを度明りあり。○又去る十月中に「プロイセン」
国に太子及び女太子英國見舞に來るべしと待
受らるるなり。○議政堂八月某日に於て會合せり。

度戦日延せり去るのう十月日本十月中に會合せんと
乃し「アビシニヤ」国にむしき為軍用
金銀送らん度戦評議せらるるなり。○英人此戦
争乃用意を大急ぎにてなせり。○「ウールウィッチ」
に此武器蔵へ昼夜のかりて備へり。○終業に
為當時英國之行し日本に若き人此武器蔵
に見物して鞍又他乃武器包む仕方なるを
見しに因て大いに其人の此益となりしやと
○此世のむしき乃為備へし軍艦数多乃軍勢及
び武器玉菜等此貯へ数多積て「ボンベイ」
戦しして出帆せり然るに此戦争に出る軍勢が大

半「ボンベ」此「ブリテイシ、インディヤ」英領に属する。病人^世
或は抱き置く為「医者」及「コレジメン」止つき乃「医者」
及「其属」「インド」より出「る」兵「の」總「数」凡「ソ」
二「方」二「千」人「も」あ「ら」ん「り」。高「名」乃「旅」人「ドクトル」ク「ラッ」
コ「ハ」諸「必」此「語」又「通」む「る」内「ニ」「アビシニヤ」語「又」通「む」又
其「周」王「セオドル」「ル」乃「面」敵「をも」見「知」故「此」度「又」此
世「の」つ「つ」通「年」官「と」して「ゆく」よ「し」。○此「軍」勢「を」
二「つ」又「分」つ「つ」ハ「メ」ジ「ヨ」ル「ゼ」子「ラ」「ル」「ス」テ「イ」ブ「リ」止「れ」号「令」
從「少」「ツ」ハ「メ」ジ「ヨ」ル「ゼ」子「ラ」「ル」「メ」ル「コ」リ「ン」此「号」令「從」ふ
全「軍」此「總」大「將」ハ「ソ」ル「ロ」ベル「ト」子「ピ」「ル」又「此」ソ

ル「ゴ」ハ「ト」子「ピ」「ル」「ボンベ」此「コ」マ「ン」ド「ル」イ「ン」チ「ー」「コ」乃「且」政
吏「も」軍「吏」也「此」人「又」任「せ」「る」○戦「争」乃「用」意「ハ」植「に」
勝「利」を「得」べ「き」程「「も」」備「ハ」れ「り」但「し」恐「る」所「ハ」我
兵「士」此「業」「なり」○「アイルランド」同「ハ」一「揆」ハ「我」軍「此」望
ミ「し」通「り」「ハ」未「ど」平「ら」ず「ら」れ「我」軍「乃」為「「る」」實「歎」
カ「ハ」「し」又「此」一「揆」英「國」の「諸」部「より」起「れ」り
英「國」又「於」て「第」二「等」此「府」「マンチエストル」於「て」一「揆」
起「せ」「し」所「五」十「余」人「逆」賊「捕」へ「ら」れ「刑」罰「行」は「た」り
未「「だ」」リ「「ハ」」「此」逆「賊」乃「長」二「人」を「捕」へ「牢」屋「「ニ」」入「ん」「と」し
て「行」「ハ」時「外」此「逆」賊「来」りて「其」長「城」「より」去「「る」」人「此」「ハ」「ポ」
リ「「ハ」」銃「「で」」射「ら」れ「たり」此「一」揆「及」び「所」「ハ」逆「賊」等「此」國

乃北部地方迄之さハズと云々其押へた為ニ平常用意
 せるものハ其兵士ニ命ぜりつハニ又此国乃東部
 戦さハガ一と云々「ノルブナルク」地乃「リ」地ハ又此国乃東部
 器蔵戦龍衣ハ線入銃及び「ヤゴ」戦奪へり○日本
 政府ハ為ニ造られ一軍艦「ロンドン」地近き所
 へ船出せり其試ニ乃早サハ実ニよく出来
 り蒸氣并ニ帆戦用して西洋一時日本時又凡ハ六
 里戦走ると云々○数多ハ新ら一と云々蒸氣船と
 速ニ走る帆前船日本及び支那ニ来らんとして近頃英
 国戦出帆せり此蒸氣船ハ日本人ニ賣んとて造り
 者ナリ且二三年前ニ賣一船を造りハ云々

ハ勝れとる要用乃船ナリ○此度他国へ用向達も
 為ニ設られ一軍艦ハ数左乃通り觸出され

- 一地中海附乃船 二十艘
- 一北亞米利加并ニ西印度附ハ船 二十九艘
- 一亞フリカの東南ハ海岸附ハ船 九艘
- 一東印度附乃船 七艘
- 一喜望峯附乃船 三艘
- 一アフリカ西海岸附乃船 十九艘
- 一太平洋海附乃船 十四艘
- 一オーストリア附乃船 六艘
- 一日本及び支那附ハ船 四十艘

○英國飛脚役所にて此度支那及び日本「サニフランシス」廿六
等れ飛脚船仲間「ニシスラルエンド」ヨリ「ニタルステイ」子ウ
「インシ」仲間此船道越通し飛脚船を送らんと企
たり○英國政府此節兵士日々乃手當を増り故に
兵士又かの者是迄より甚多くたれり去りも只
備はらざる所ハ「ロウヤルアルチウレリ」王抱入此乃ミナリ

佛蘭西國

帝女及び太子「イニ」ヤル此秋越「ビヤリテイ」
於て過せり此「ビヤリテイ」ハ「レニス」山又近き所こ
て帝此甚ど愛せる所乃宮殿たれはなり此帝
爰より「リ」ボルリニ「ボルリニ」ボルリニ見舞んとせり

○佛蘭西政府にて此度佛王帝及び「オストリヤ」帝の
面會又有て觸出し_一此度佛國帝及び「オースト
リ」國此帝互ひに面會せしハ公使_一議せむ_一此_一也
只「オーストリア」此帝乃眷属其兄「メキシ」此國帝
「メキシ」リニ乃殺害せり_一此大いに歎く故夫を
慰め免んとて面會せり_一此「イタリヤ」より乃新聞
乃為佛王に於て騷動起り傳信機乃便りを見
小佛王政府戦ひに用意致す故此冬ハ戦ひ
らん_一其王乃人民甚ど恐り此政府小變り
也_一及び「バニ」_一は_一を_一非常_一又_一沃山_一買_一人_一を
して歐羅巴に於て戦争の記し_一此_一思_一せん_一と_一め

カウリ去カウリ佛国に於てハ今年に作すず礼一故
買一カウリ戦ハ乃用意ハ思ハ礼ハ殊ハ必
帝乃近頃乃業成ニ於て平穩ハ願ハて居直又ハ
何ハセリ○「パリ」ハ博覽會ニ於て珍物乃内ニ「バ
ギ」ハ「ブ」ハ神ハ信ハ者教文ハ道具を見リ
此ハ小カキ箱ニシテ右ハ方ニシテあり若教ハ
云んとカウリ時ハ唯カウリシテ廻カウリナリ「バ
ギ」ハ「ブ」ハ此道具ニシテ一日ニ數百ニ十の教文ハ其
教文ハ時ハ常ニ順席を立実ニ思ハカウリ歐
羅巴人の大ハハ笑ハカウリナリ○「ブ」ハ「ス」ハ
佛蘭西乃内極西ニシテカウリ「ニ」ハ「ユ」ハ
傳信機網ハ渡カウリ為

社中出立リ此網ハ「ロ」ハ「ド」ニシテ於て此節造ラ礼リ此網
ハ渡カウリ為「グ」ハ「リ」ハ「ス」ハ「ト」ハ「ル」ハ
世界中ノ最大ナル船ニシテ長サ六百
「ア」ハ「メ」ハ「リ」ハ「カ」ハ「玉」ハ「レ」ハ「舟」ハ「ノ」ハ「内」ハ「ニ」ハ「テ」ハ「大」ハ「ハ」ハ「カウリ」ハ「チ」ハ「ヤ」ハ「イ」ハ「ナ」ハ「レ」ハ「カウリ」ハ「舟」ハ「長」ハ「サ」
三百六十尺中四十六尺ナリ此「イ」ハ「ス」ハ「ト」ハ「ル」ハ「ニ」ハ「シ」ハ「テ」ハ「用」ハ「ツ」ハ「レ」ハ「未」
年夏中ハ出来せんカウリ此ニシテ「ロ」ハ「ド」ニシテカウリ「ニ」ハ「ユ」ハ「ル」ハ
ハの便リハ大ハハ近ハカウリなる故自然歐羅巴カウリ支
那及び日本ハ便リハ通カウリハ甚カウリ容易ハカ
ウリ

プロイセン國

「ス」ハ「ウ」ハ「エ」ハ「ー」ハ「デ」ハ「ン」ハ「ノ」ハ「王」ハ「及」ハ「ビ」ハ「女」ハ「王」ハ「并」ハ「ニ」ハ「和」ハ「蘭」ハ「王」ハ「ハ」ハ「血」ハ「續」ハ「乃」ハ「者」ハ「ア
ロ」ハ「イ」ハ「セ」ハ「ン」ハ「ノ」ハ「王」ハ「見」ハ「舞」ハ「ニ」ハ「行」ハ「ハ」ハ「ル」ハ「リ」ハ「ニ」ハ「儲」ハ「ニ」ハ「於」ハ「テ」ハ「其」ハ「王」ハ「ハ

面會せり。プロイセンは高名は家宰「コイント」ビスマルツ
「フランス及び「キーストリア」との両国は乃帝面會目の方
て觸れを出し、此觸れは佛兵新聞帝乃内、大
ひたる怒り、或生ぜり。○「プロイセン」乃五月、烟脉中旬
頃、南「ゼルマニ」乃方へ旅人、或出たり。○「ク
ラウンプリン」は「英」必「ロンド」に於て造り、或る「プロイセン」
乃舟、してられ、欽張あり、此間、其早サを試り、
れ、是船、新、立、「ゼルマニ」の海軍、乃、或め、得
たり、且他、乃、欽張舟の内、於て、最初、此舟、あり、他、又
同、し、も、か、ある舟、も、又、英、兵、に、於て、製、衣、造、中、あり、「プロ
アセン」乃、軍艦、の、當、今、八、艘、あり、其、積、大、砲、の、數、の

四百五十四門あり、其内、四十二艘、は、蒸氣船、あり、此、四
十二艘、は、積、置、所、乃、大、砲、の、數、は、三百二十七門、あり、○
「キーストリア」は、戦争、の、間、「プロイセン」に、用、は、軍、勢、の
戦、死、せ、り、乃、此、に、付、て、報告、を、役、所、より、「ホルリン」
於て、發、し、たり、其、報告、を、見、こ、「プロイセン」及び、其、
味、方、の、組、せ、り、國、の、戦、い、に、出、る、軍、勢、の、合、せて、四十三
万七千二百六十二人、あり、其、内、百二十九人、は、「ゼ子」ラー、の
人、あり、八千九百六十四人、は、他、役、人、あり、又、十、万、百、九、十、二、の
騎、兵、あり、怪、瑕、人、乃、惣、數、は、一、万、六、千、百、七、十、七、人、あり、其、内、
六百六十九人、は、官、人、千、五、百、五、十、人、は、兵、士、あり、生、殘、り、者、
乃、人、數、二、千、九、百、三、十、八、人、其、内、百、七、十、八、人、は、官、人、二、千、七、百、五、十

三人ハ兵士有り 搦死人ハ二万五千六十二人と六千四百九十騎^三
ナリ 怪瑕セー 役人ハ兵士の數ニ倍セリ 此割合ハ
十五人此役人乃内ニて一人死一二十人の兵士内ニて
一人死ニ程乃更ナリ

オトストリア国

国帝「フランシス、ジョーゼ」及び女帝十月^九 解此未頃
「パリス」城見舞んとセリ「メキシコ」乃報告「ウイ
ンナ」着セリ 此報告ハ「アドミラル」テゲット「ホッフ」メクシ
「リ」^前帝乃死骸を取返さんとセリ 其更叶ハ
ざり 其故ハ「メクシ」政府ニ於テハ其死骸を返
さ更城嫌ハ夫ニ付テ甚ド六ヶ舗更起れりと○日

本使也即九月二十五日^{日本} 八月^日 又「ウイ」^ナニ着セリ

和蘭院國

「ロツテル」^タニ於テ「コレ」病甚ド流行一 毎日棺
財出る^志九十六病ハ取付礼一 著ハ大概西洋
三時四時乃内ニ死セリ^心○海軍^掛リ此「ミニ」スト
ル多ク此軍艦を英國へ逃へる更を命セリ
且陸軍兵及び海軍兵とも大ハ増リ^{日本}
大君乃尊弟民部大夫様御更和蘭院王^ニ行
面會遊^ハセリ 其折^ハ双方とも家未杯
召連ラ礼^ズ手輕^クあり

スウイツツエル国

日本使節ハスウィツエト国城出帆して「チースリス」
への道城通り和蘭陀国又行祀しゆ此使節ホ
ルン^{の都}の滞留せる時云く此奇麗なる玉
城見舞ふ喜大いそめりて数多れゆき
物城進物せり其内日本大地圖ありとせ

イタリヤ国

「イタリヤ」より乃新聞ハ尤も恐るべき且甚ど大切
なり是はで乃新軍紙御覽被成し方ハガ
リバルデイ此喜城内覽相成ゆ存此「ガリバルデ
」ハ羅馬の「ポープ」乃悪政城防きて生涯其國民
城救へんとする程又已れ民城愛する人あり

此「ガリバルデイ」乃思ひ多ハ玉君此「ポープ」僧を城此地に
置ハ政ニ有乃為こつて悪しき礼不正ありと尤も
その喜城思へる永き間の喜なりし今に至りて
そのありし城遂へて好機會城見出せり佛蘭西
乃軍勢カ羅馬城固めに七年半此間出張しガ十月
前ハ四羅馬兵に任せ置て歸礼り○「ポープ」此權城
山明し羅馬城「イタリヤ」全玉れ都々なるんことを
「ガリバルデイ」大い願ふ所なり「ガリバルデイ」羅馬を
西洋九月二十日^{胆解}に龍衣ん企たり然るに其以
前に羅馬城界ハを越くせし時ハ太利亞の政
府捕へられ「アレクサンドリヤ」^{イタリヤ}まで連戻され

其後「カピラ」記述不明へ送られり志するは此嶋より不
意に逃出大陸に着せり夫奴又捕へ今度へ「カプレラ」不
送り厳重に敬護せり「ガリバルディ」ハ「ポロ」に權を萌
し自由をたのみを更たより「ガリバルディ」乃捕へられ
奴民皆怒れりとい。我等此次又来る飛脚船にて「イ
タリヤ」今年末迄は一個は王国とあり「ワイクトル」エ「マニエ」
一王となり「羅馬」奴其都とせん新軍奴聞んと侍

合衆國

「發熱黃証」熱病「メキシコ」に云々入江に近辺は土
地に於て甚流行せり「ニク」ナル「エ」に於ては此病は
乃為に死する者一日は六百人なりとい。此誠歎

「ハ」に更たより○佛蘭西は蒸氣船「ブレスト」地
に出帆し日数九日と二時半西曆の十月八日日本「ニュ
ヨルク」に着せり「ブレスト」佛國西より「ニュヨルク」亞國東までの
里數四千二百里日本里投て六百十里とあり是迄大西洋を渡海す
るにのり速くありとい。と云兩側は車奴持する他
乃蒸氣船太平洋飛脚船九月神間乃舟中旬頃「ニュヨルク」に於
て船卸しせり「ジエペン」に船号せり其大さ「カレ
ト」ハ「リック」に船「チヤイナ」に船あり大サあり此三艘は備濱備
去年乃十月日本「シヤベ」に奴造るべしとい命せり
十二月朔日「キ」舟乃先よりに奴造り初めより
此ハ「シヤベ」に日本未年正月元日日本「ケ」ハ「ケ」

ルに捕獲され、或は通り、コサンフランシスコへ行へ。此船第一等
乃、部屋に六十人、第二等乃、部屋に五百人、其外凡
千人、余乗込へ。此船製、製造諸入用、凡百二十万ドルラ
ル也と云ふ

日本國

右に記せし處に必く乃、新聞ハ成丈畧せしや、然れども
悉く畧し、程なり併し、六のうら日本人の自國
乃、其の自てハ外國人のうら多く、知少、此の書載せざ
られども、横濱に於て出版せる「シヤツパンタイムズ」に
新聞紙、乃、其の「所」に報告を此新聞紙に記さるるは
忍びず、程に其の「シヤツパンタイムズ」に出版

する者ハ諸人の職業紙、知く已に職業紙、知ぬ者なり、ん
故、其者の新聞紙、ハ折く、虚たるを、其のりて、差止らるる
ゆ、度となり、已に、月前、神奈川御奉行「メストルセル」の
新聞紙、又載し、大坂外國人居留地の圖、自て、大い「シヤツパン
タイムズ」に、或は、且此圖ハ日本政府未だ許容なり、とて、夫を
差留られし、其のり、日本政府にて許容なるを、圖紙出版せ
し、ハ、第一日本政府へ失礼と云へ、其の「メストルセル」に、耻べき所
なり、多く、其の外、必人の日本政府より、此人に、職業紙、取上ん、され
ども、當然、乃、其の、決して、當人、驚くべき、其の、り、たず
と思へり、此人の、纒乃、仕、其の、多し、乃、礼金、或、會、る
其、終、た、り、其の、不正、其、上、た、り、又、此、間、出

板せー「ジヤッパンタイム」の
 大君に對し甚ど恐縮
 せんさどどもありー○英國佛国及び其外五州「ニ
 ストル日本は新港を開くも付て觸り」○江戸新浮井と惠
 美港佐渡内渡ハ未だ用意備つらむ故未千八百六十八年西洋四
 月一日日本未辰前より開けがしー外國は「ニスト」此當土月下旬
 小兵庫大坂へ行ん是ハ未辰日本正月元日又右此ニテ所を開く用
 意なり○英國軍艦凡十二艘此内三階造りノロッド言今年此未
 鉄ニセノチーシヨにあり
 小兵庫乃近辺又一同出會し其後當地へ来らん日本は諸君
 子當時は船乃造り方珍らしーさりと見しゆらん「イ
 シヨ」の鉄させ船中にてハ初て日本へ来りしゆりてハ日本
 乃入りの定めて月夜會賜ふべー

横濱九町住居此中川屋某此度江戸高輪英吉利館
 波戸場側之仮宅を隔て肉類賣出のむ肉は性を撰て
 成丈下直之商内致しハ叔牛肉ハ健康なる体ニ宜しーさ
 乃こつちむ虚弱又ハ病身の人或ハ病後ニ食せしれハ
 氣力増身體を壯健ニ依て牛肉乃全体を圖又顯ハ
 其用ひ方を委しー知申す何卒澤山買取玉ふ希ハ
 牛肉部分乃善悪より分て五等又分つ

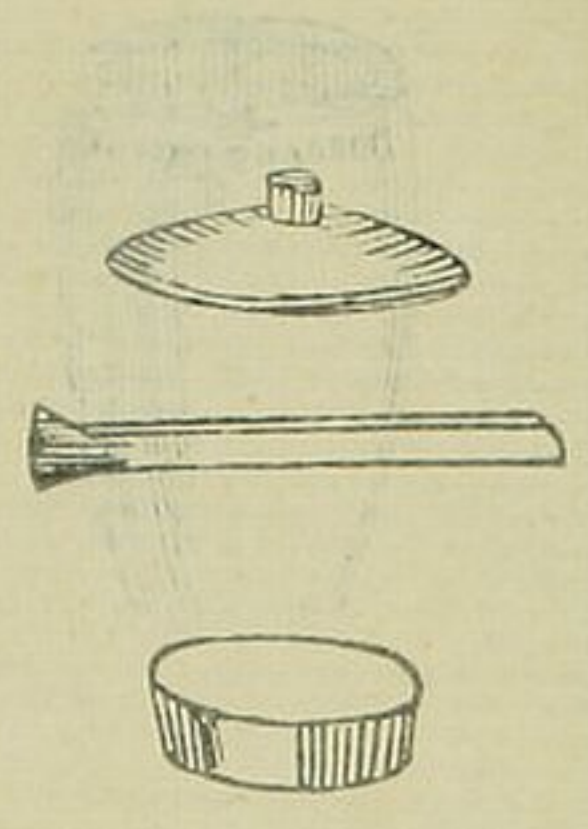
第一等	一二九
第二等	四七十一
第三等	三五八十二
第四等	十四
第五等	六十五

牛肉部分乃圖及び用ひ方は次第

黒四羅紗上着
 全 短衣
 全 股引
 白短カキ上着
 全 麻股引
 全 短衣
 右の品々恰好仕立差上いる所注文を願ひ
 横濱五十三番
 十四ドルより二十四ドル迄
 四ドル
 七ドルより八ドル迄
 ニドルより三ドル半迄
 三ドル
 金緑の義山好次第
 ラダリーシ

高名なる「ミル子」此鉄張箱の社以盗賊并火の節
 極大丈にて大小色々の社以の求を願ひ
 横濱二番
 ウォルシホル

ハンピスケット、ボットル此品私店に社以の求を願ひ
 横濱元町二丁目
 中川屋嘉兵衛

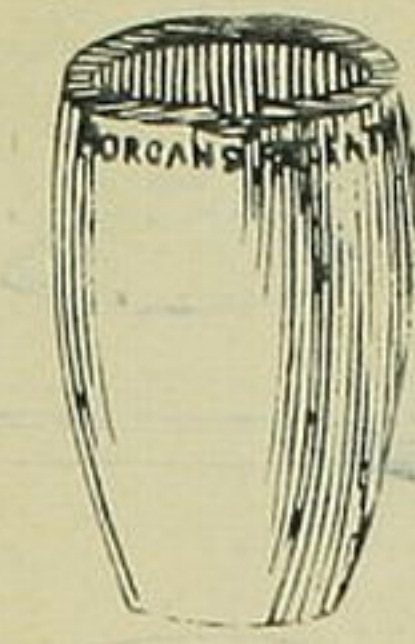


ペーテント
 フルエムベ
 ガクルシフル
 コムパニー
 此鉗鍋乃儀ハ兼て博覧會日に出
 せし甚ど稱羨致され「イギリ
 ス」フランス並諸國乃金銀座にて
 數年来相用い其品ハ皆並て乃
 品よりハ余程久しく烈火の上置
 いても破れ不申金銀銅等鎔い
 四十度五十度殊もれハ百度位迄
 相用い申い又火よりおろし次第
 水に入れても破れ不申鋼鉄を鎔
 一以外通例乃品よりハ此灰乃費
 へ或省き千斤乃鋼鉄を鎔一

ロンドン

ハッテルシー

制衣造所



千五百斤此山灰相余り且速に鋸
申以幾度も此用の故鋸にして鉗鍋
余り付以費も少く以費へを省き以所
也山灰乃余り計り以ハ夫がうりても
此鉗鍋此價いよりハ余計に所在以尤
も大サハ所好次第十五文入よりハ何斤入
も指へヤハ分且里ハ壺に相記し申以
此印ハ手前制衣造の印にてハ
左様御兼知可被下ハ

横濱 ボイル

長崎 ニコルソニアンドボイル



英 國 考 究
ニ志アル者ニ教授セント欲ス先生子弟ノ教
育ニ熟心慣セリ先生英國^カケンブリッヅ^大大
学校ニテ修業シ此大^カ学校ニテ学藝上達
ノ為ニ多クノ稼取當ヲ得タリ故ニ十分ノ教授
ヲ与フル莫ク得ルナリ若シ已台トヲ得ズシテ英
國ニ趣カント欲セバ又為ニ周旋スベシ教授料ハ
多クニ受ケズ又西洋書ヲ藉以持セザル者ニハ
別ニ料ヲ受ズシテ借シ教ユベシ

横濱

百一番

ロンドン

ハッテルシー

制衣造所



千五百斤此山灰相余り且速に鋸し
 申以幾度も此用の故鋸し以て鉗鍋
 余り付以費も少く以費へを省こし所
 也山灰乃余り計り以て夫がよりよても
 此鉗鍋此價いより余計に所在に尤
 も大サハ所好次第十五文入よりハ何斤入
 も持へやハ分且里ハ壺に相記し申し
 此印ハ手前制衣造の印にて
 左様御兼知可被下し
 横濱 ボイル



英國教師ベークー先生日本貴公子ノ英学
 ニ志アル者ニ教授セント欲ス先生子弟ノ教
 育ニ熟慣セリ先生英國ユカブリッジ大
 学校ニテ修業シ此大学校ニテ学藝上達
 ノ為ニ多クノ褒賞ヲ得タリ故ニ十分ノ教授
 ヲ与フル莫ク得ルナリ若シ已ムコトヲ得ズシテ英
 國ニ趣カント欲セバ又為ニ周旋スベシ教授料ハ
 多クニ受ケズ又西洋書竹籍所持セザル者ニハ
 別ニ料ヲ受ズシテ借シ教ユベシ

横濱

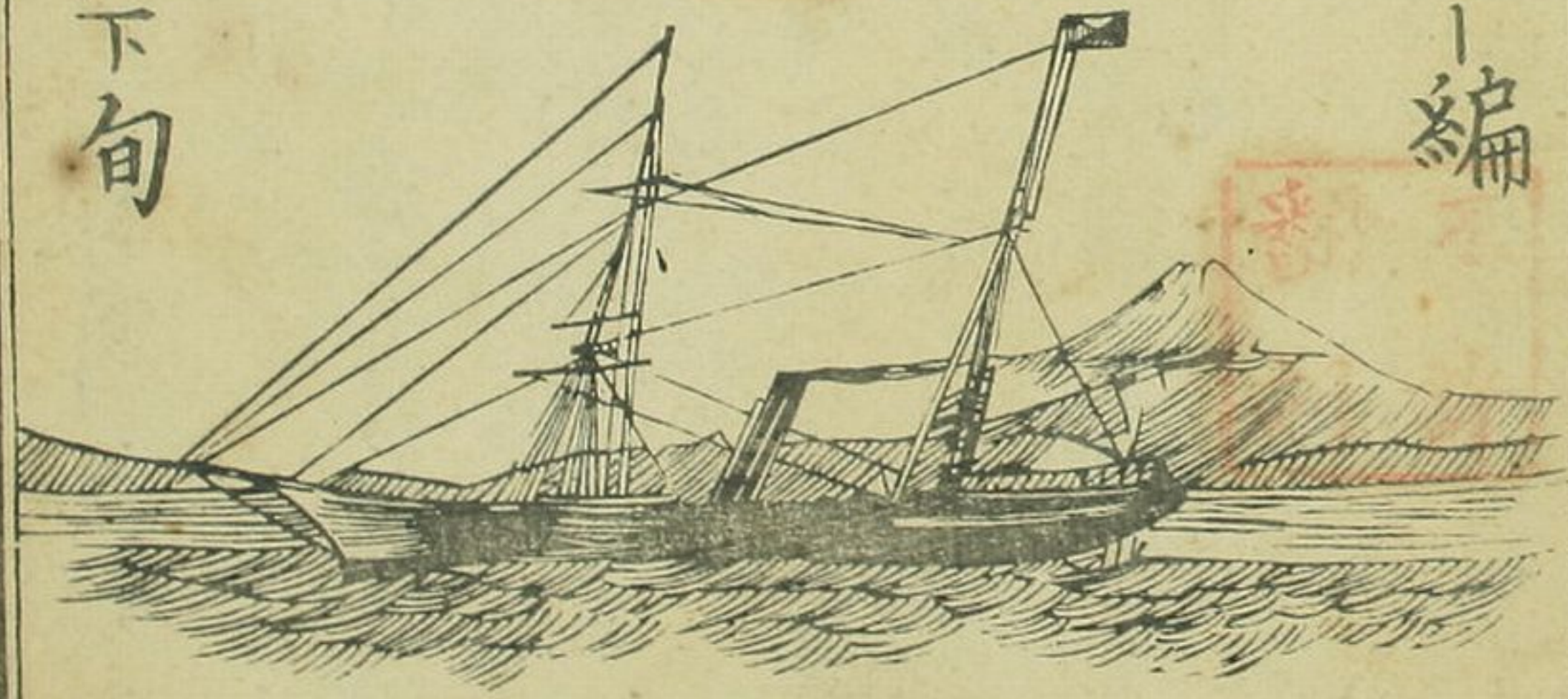
百一番

萬國新聞紙

每得新報發

第九集

英國教師ベリ編



一千八百六十八年

橫濱出版板

慶應三年七月下旬

發行書肆

橫濱海岸通三十番

ハツト

江戸日本橋室町丁目

丸屋源三郎

全太田町三丁目

大黒屋茂兵衛

京都四條通御幸町角

菜山堂三郎助

全駒形町

伊勢屋勝郎

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

全并天通五丁目

師岡屋伊兵衛

箱館

デューズ

江戸和泉橋

大倉屋喜八郎

長崎大浦

ケイス

凡

此萬國新聞紙ハ日本乃諸君之萬國の支情成
 知志めん為之作れり。日本此日之強大之開き進む
 支速ふして當今志める乃諸君乃公之遊歴學
 同まると支自由のたのれあひ予等の大慶なり。今の
 時之當りて諸君乃公は支情之通達せざるは欠く
 ざるの急務なり。○毎月二三度飛脚船新聞を持
 来れば直之出板せ。○此新聞紙ハ諸人の報告を集
 めて作りしものれば間々疑ひし支めりて虚実分
 明なるざる古支めりとも予等説く支能はず。○諸
 君若珍説奇談ゆふば知せ玉へ。○巻の終りに同を設
 くる所の諸君答めよ。百一番迄投却せざるべし。

例

「アメリカへ學問修業と交易又ハ見物遊歴渡海致
 成度四方へ随分由世話可仕い

横濱九十三番

ウヰンリート

私宅まで諸西洋藥品吟味精製衣賣出しある
 所入用乃所方様ハ所光来可仕下い

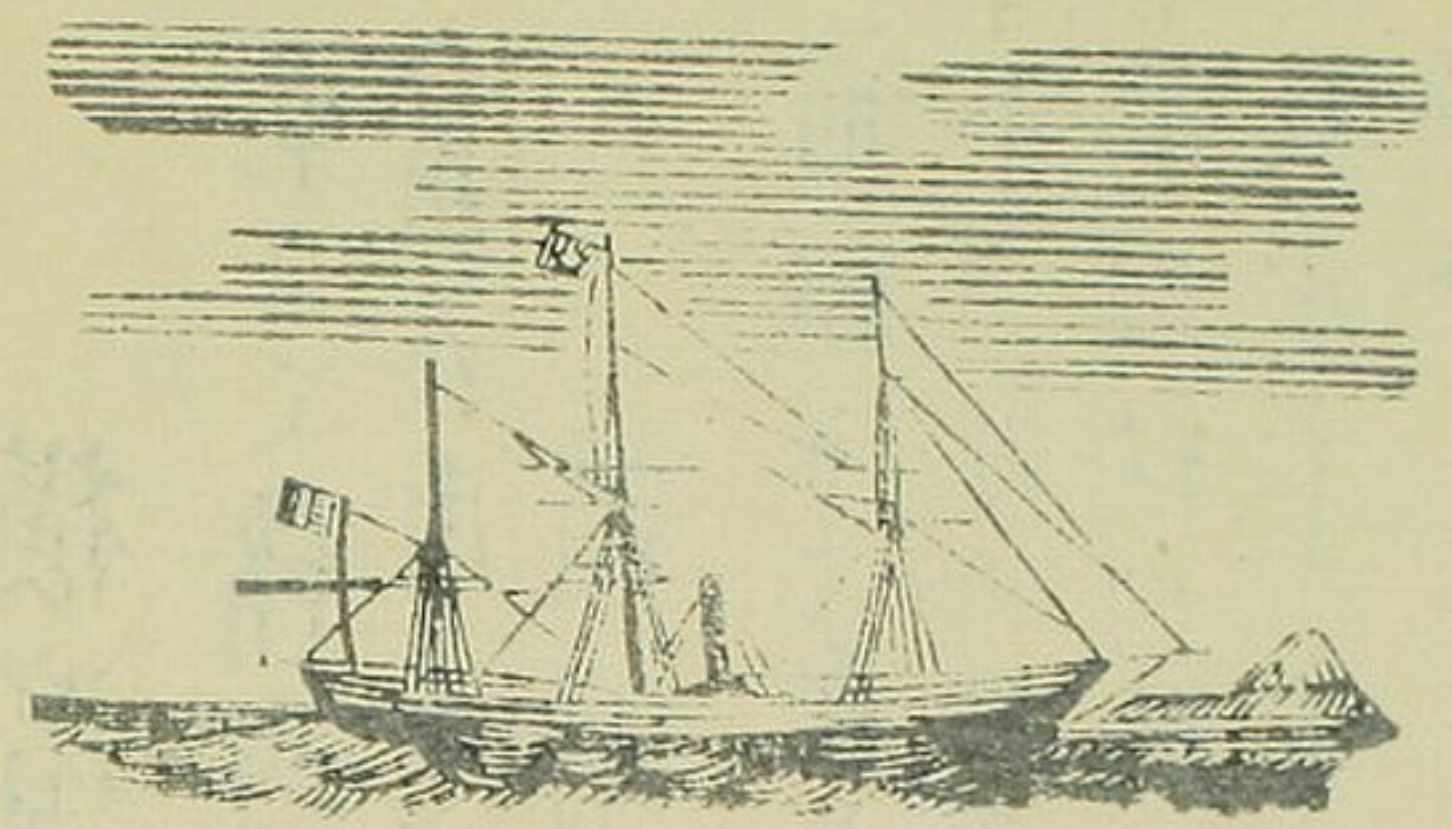
横濱百八番

ウヰツタル

帆前船并蒸氣船之入用なる品物悉く書付致
 澤山所仕い且又外國乃品も種々所仕い尤も正直
 又商内仕い約定仕品或ハ損トる遠仕いハ早
 速取戻し金子所返り上ハ何率ハ用社仰自度
 存願い

長崎大浦

ソース社中



佛蘭西國乃火輪船每月六日
 七日頃本國より「エジプト」「インド」
 支那を過て横濱到着す此船
 横濱三日碇泊の後十日十日頃
 支那「インド」「ヨーロッパ」行旅人并
 書狀荷物等積込出帆仕仕
 書狀金銀荷物等運送の所
 用其外航海成度所方様ハ
 十番迄所出可張下
 メサシエリエニペリル 仲間出店
 横濱十番 ワツスル

私義写真鏡渡世仕處此度手前方江家
 御免奈なく也

大君此御姿を写真以所望乃以方ハ私宅ハ出
 可張下
 横濱二十四番 ビワト

私店て外國乃書衣服筆紙墨の類其外種々品
 物商内仕以所光来事等
 横濱百八番 ピールソシ

馬具鞍フラスコ等々線入銃ピストル等
 何事御買求此程偏小奉希
 横濱海岸通三十七番 コーフ

大小長短種これにペンシルドライフ並火薬雷管の類
商内仕ふる由買手候候

横濱三番

ウイールキン
ローベルソ

私店より昨日度宛外國品物迫賣仕候間此
段御披露申上

横濱五十一番

フレッチェル

諸御方名衆様方其外蒸氣船御買入被成候
御方何卒私方へ被仰度存願候且右舟に係
一切此度由彌成度候り委細申上候由注文存願
ペニシラルエンドナリタルスライヤウイール
社中出張

横濱海岸十五番

テールウイソ



私方、英吉利産乃牡豚二疋の在候若此
種取度思召の以方、此豚の持来り成候
此段の披露仕候

横濱海岸通五番 スメツス

此度私國元より渡来れ蒸氣船数艘軍艦二艘商
船数艘不殘賣物に在候右に内商船三艘ハ別
壯麗なる船に在候由買取被下度直段成候
格好相働可申候且其外新制衣乃フブリチ
西洋各物も、其等賣買候由何卒の光来り願
由注文乃呂ハ急便に寄差上可申候

横濱海岸通二番

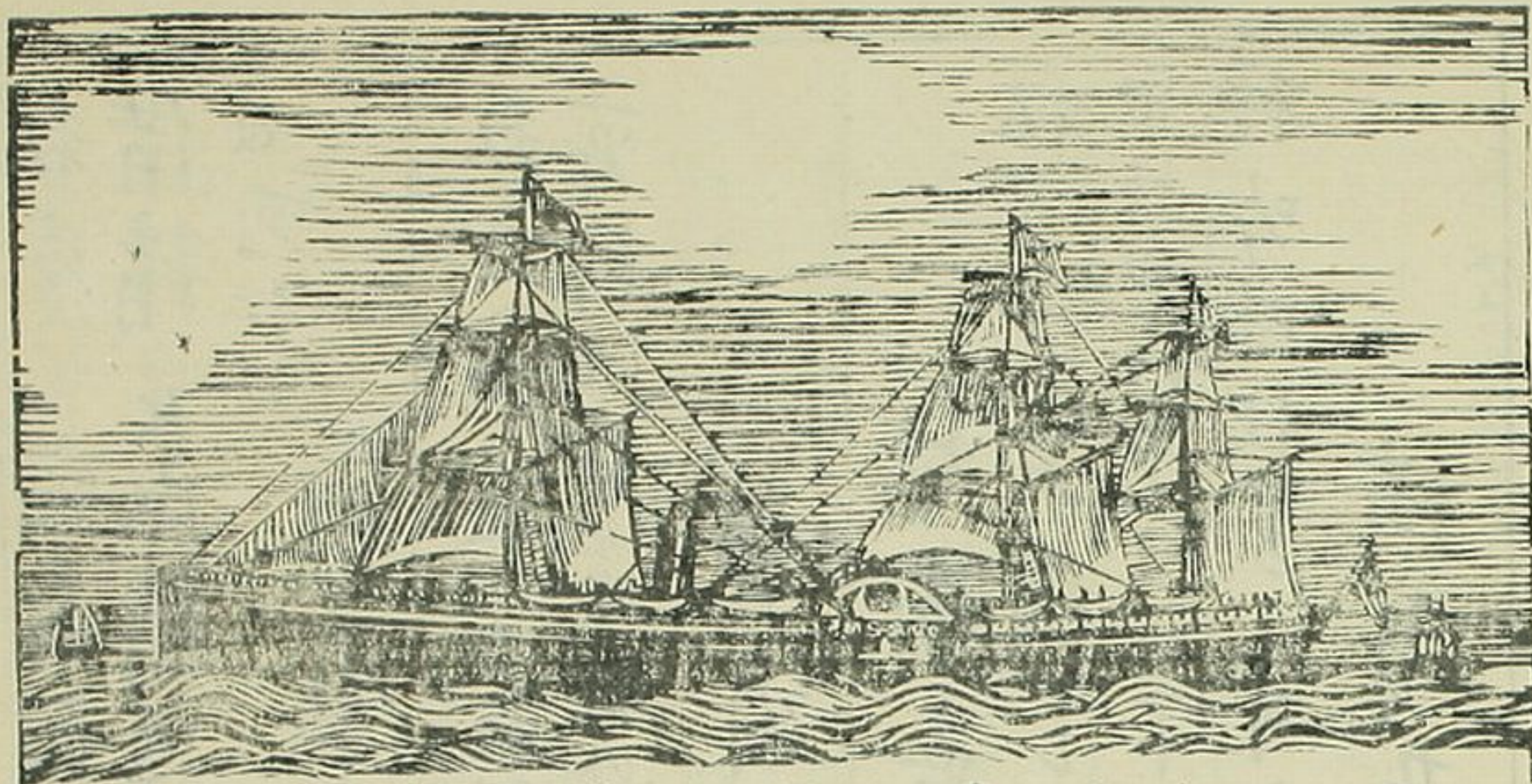
ウオールニホール
長崎商會

ソニー社中

機械師 眞鍮鉄細工師
鍛冶師 蒸氣釜金師

右細工所横濱塚割此側百ト七番の家作仕の耕
作乃道具乃圖紙差上可申川蒸氣、風或ハ水に
て廻り米穀つく申金小強堀機械、蒸氣船及び蒸
氣乃機械等御注文の座より指入申龍吐水乃類
と指入又ハ補ひ出来申其外寶丸破裂丸並びに
「モルチユル」製造の機械並びに種々の戦争に用ゆる口
コト申す申す火天強指入の機械も製造仕の何卒
御用被仰月度を希い

ルスイ



亞米利加大輪船「クレイト」バブリク「土月朔日頃
サンフランシスコ」より横濱又来り一兩日碇泊
して香港へ行べし又折返し横濱又来
二月廿七日頃再び「サンフランシスコ」へ行べし
○蒸氣船「チャイナ」土月二日先長崎上海
行同二十七日頃横濱へ来り「バブリク」乃來
ニ候待「アメリカ」へ行べし○蒸氣船「コス
タリカ」土月二十七日頃横濱より新開港
乃兵庫の荷物書狀又遊歴此方候も
乗行べし若日本此商人所用且便船の
御用等の候はり私方へ入来可下は

亞米利加大飛脚船仲間

横濱海岸四番

私方にて諸荷預り金子貸渡一可申日本諸商人
借請成請返之節ハ元金并之利金少々何物引替
又可仕ハ

横濱八十一番

フワペル

私方へ抱置ハ芝田町八月廿日板木屋直吉ヨリ申者私方
所持ハ品盗取ハ自此段觸之ハ申

横濱

百一番

硝磺賣捌

私方にて英國ロンドンより極制表ハ硝磺取寄賣捌
申ハるハ求可申下ハ衣品物ハ細ミ物粗ミ物兩極とも
極吟味仕差上可申ハ沙買取ハ程偏之ヲ願ハ

横濱五十八番

メクラエルソン
マールシヨル

大英國史

第六編 紀元八百年ヨリ八百七十五年迄
日本延暦十九年ヨリ貞觀三年迄

英國セケ國分れてウキー時代也「ハフタルキ」
名付「ウエッソックス」ハ内國乃至「エグベル」ハ甚ど伶俐王ナリ此王
八百二十七年四年長又他ハ六ヶ國從カヘ全キ英國乃至少
ナリ「ハフタルキ」乃又又付てハ右云所外ハ詳々ナ
ラズされども平穩ハ時ハ少一もナリ一此時又恐
ベシ新ハ敵此國或苦志めん又或始めり此敵或云ハ「ル
ウ」國及び「デ子マルカ」國より来リ「ルスメ」ハ瀛或ハ
「デリス」とも云長う者ハ其を海王少云此水夫ハ其よ
以て拙又猛勇惡逆なる或以てナリ此「ルスメ」ハ取初
英國ハ海岸を三四週ハ間爰彼處見廻リ教多ハ物を

むいより是、故悉く積て帰れり夫より又直に来り英
国は住る「サクソニ」に故、故苦めり古礼「サクソ」に人四百年前
「ブリト」に人故苦「や」如く年々「テ」に「群」宛来り必
中又むいより市街故奪ひ又焼きて其民故土礼以て使
へり此海王「コラ」に神故拜す故又耶蘇宗に僧を惡
む甚甚ど「悲」い「復」に此僧故殺し寺院故崩せり此
時は英國悉く此に恐ろしき外國人れ手こ入らんとせり然
れども天志礼が爲は此も故救ふ者故下せり即ち大徳に
王「アルフレッド」と云此王「エグ」に止乃孫よして八百四十九年
禪年又生れり尤も「エグ」に止れ死して十二年乃後れ「復」り
「アルフレッド」の幼き時より「勇」にして学が「復」速るなり是の
讀書故「学」ぶ「ゆ」す此頃「其」父も他人も教ゆる程

あり又樂人昔「勇」氣ある人れたせ「大業」故歌又
作り詠むる時の耳故側立て聞き彼等れ「古」き「琴」今
故合せて詠むる「復」故「学」び「遂」に書物故「学」び得り
「百」其母「アルフレッド」は去書物故見「古」礼を讀人と欲さば
汝「古」んと云此書物の音麗に画故飾り又樂人れ詠む
る詩れ如き故書り「アルフレッド」師乃た「古」きを歎ひ如
何せんと思ひ「古」が「遂」に師故得て「学」べり「一」書故得ば
書故探せり然れども此時「古」の書物乏し「古」故王れ
子「古」ても得「復」難し「板」又起す「古」紀元千四百五十年日本室
徳二年
後又始まれり「アルフレッド」れ時代より「古」六百年後なり
其頃「古」の書物皆念「古」れ又書し「古」者故甚ど「古」
十三

おひとり是奴悉く積て帰れり夫より又直り来り英
国は住る「サクソニ」に奴奴苦めり古礼「サクソ」に人四百年前
「ブリト」に人奴苦「や」如く年々「デ」に「群」宛来り
中又まじらう市街奴奪ひ又焼きて其民奴土礼以て使
へり此海王「コ」に「神」拜む故に「耶蘇」宗に僧を惡
む甚きごと悲しむ此僧奴殺し寺院奴崩せり此
時は英國悉く此に恐ろしき外国人に手入らんとせり然
れども天の礼が爲に此を奴救ふ者奴下せり即ち大徳に
王「アルフレッド」と云此王「エグベ」に止乃孫よりして八百四十九年
禪二年又生れり尤も「エグベ」に死して十二年乃後れ其子
「アルフレッド」の幼き時より「勇」にして學ぶ其速り有り是の

又字數奴知ざりし故に唯猛獸奴捕へん爲に創り天の學び
しあり又樂人昔より勇氣あり人れ大せし大業奴歌又
作り詠むる時の耳奴側立て聞き彼等れ其心く琴
奴合せて詠むる其奴學び遂に書物奴學び得たり
一日其母「アルフレッド」去書物奴見し礼を讀んと欲さば
汝と人々と云此書物の音麗に画奴飾り又樂人れ詠む
る詩れ如き奴書り「アルフレッド」師乃た其を歎ひ如
何せんと思ひしが遂に師奴得て學べり一書奴得ば
書奴探せり然れども此時分は書物乏しき故に其
子こそ得難し板に起す其書物
紀元千四百五十年日本室
徳二年
後又始まれり「アルフレッド」は時代より六百年後なり
其頃迄の書物皆念古物に書し者故甚き也
十三

者なり一の巻を得んと廣き地面を以て此
替或いは大金を拂へりされどもアルフレッドは種々其
城讀ツ字べり此時は「デリス」ウエッセキス乃外全国城う
まひ今又此れ城奪ひやり一故是城防が其兄
弟皆戦ひて出アルフレッドは此れ城救へん為其学業を
心るゝむも忘れり戦争の間兄弟皆死せしよよ
つて「アルフレッド」八百七十二年觀讀又王少なれり

蒸氣船燈規則
第八

航海者就音の為難所を乘廻る船は燈
帆前乃パイロトウエセル他乃帆前の燈り或自へうふす
諸方明くに達する様にして帆柱乃上へ白燈を自
又十五ニナト毎に不息息又光り燈出すべし此仕方ハ燈
ふふと燈一来る時の夫燈用さ又さくくに蓋する也
第九

魚獵船并小船燈

甲板乃なる魚獵船及び他甲板なる小船他は
船は脇に燈り燈用さべし一方にてハ緑りたる玻璃
燈持他方にてハ紅き玻璃燈持べし他船に近より又ハ
他船我船に近寄時の打合も或は防が為緑燈を
取船は側乃方よりぬすか又紅燈の面舵乃側れ方
よりぬすかして十分なる時は顯すべし○魚獵船
并甲板なる小船ハ破燈卸せし時或いは網燈卸し
て動かす居時の懸さる白燈燈顯すべしされど

も魚獵船并に甲板なる小船都合ありき其と思ひ白
燈此外に不意に燈り或用してよ

西務に合圖乃規則

廿四

尺直して夜までも霧に降つる時の左に記す通り乃
合圖を用ひ少くとも五ミニット毎に卿音せよ

其一 蒸氣船走りて居時の甲板よりハインチより多く
上て蒸氣を移せ或用せよ

其二 帆前船走りて居時のフチグホールにせよ名付る喇
叭を用ひよ

其三 蒸氣船も帆前船も霧よて走らざる時ハ
鐘を用ひよ

第十一

二艘に帆前船出合度

二艘に帆前船先々出合互ひに危く打合んとする
この各其取舵乃方除て通るべし

第十二

二艘に帆前船互ひに横に乘越度

十字字ありて行役令に二艘の北より又二艘の西より来
る也

二艘に帆前船風吹て危く打合んとする程又互ひに横に
きて行時の取舵乃側吹来る船の面舵に側を吹きた
る船に道越避へし志あり取舵乃方吹来る船風乃
吹来る方又近き居他乃船自由又居時の其自由なる船

取舵乃側舷吹れて居船は道越乃くべし若し兩船乃
同方吹時又一船ハ風ハ順ハ他船ハ風迎ハ其時ハ
風ハ迎ハ船風ハ順ハて行船道越乃くべし
第十三

二艘ハ蒸氣船出合支

二艘ハ蒸氣船先ハ先出合時ハ取舵此方ニよけて通るべし
第十四

二艘乃蒸氣船横ニ切て行支

二艘ハ蒸氣船横ニ切て行時一艘其面舵の方ニ他乃船此
来る候見バ他船乃道を乃くべし(イ)乃兩蒸氣船互ハ
横切ハせむ若し乃蒸氣船面舵側此ハハハ船前乃乃方ニ
ニ於て(イ)ハ蒸氣船見バ其ヨシ取舵ニ切て(イ)ハトモ

乃過る後ニ行べし又(イ)其取舵側此ハハハニ於て(イ)見時ハ
(イ)其ヨシを取舵ニ切て(イ)ハトモ乃過る後ニ行べし

外國新聞畧

此ニ載る所ハ新聞ハ英吉利飛脚船「エイデン」乃再々び持来
里一乃あり此飛脚船西洋三月十日日本三月十六日に英國
帆一西洋正月九日日本三月十日に當港ニ着きた亞國飛脚船
「クレト」ハブリクハ西洋三月四日日本三月九日に「サンフランシスコ」を出
帆一其海路浪多ク又風小逆ハ故ニ大ハ延引
一西洋正月四日日本三月十日に入港一傳信機以てヨウロ
ハより得る西洋三月三日迄持来礼り佛國飛脚船
一週日前より入港せむニ処未ダ入港せざるハ我輩乃
失望する處あり

大英國

議政堂に於て西洋二月十九日保明に會合あり前の新
 聞帝に云く如く此會合ハ非常に其議せし平年
 於て八月より二月迄此間ハ急速に其件を以てされば
 して會合する事なきなり此會合はおかて議せし其
 件此内にて重きハ「エビツシニヤ」王「セアドー」ハ
 なるなり此會合其時女王曰「エビツシニヤ」王「セアドー」ハ
 余程以前に捕へし英人返す其議せざる故唯兵を
 數多送り我臣下を取戻さるなり外に議せざる
 其事なり此成敗入用は二百萬ポンド凡日本金
八百萬兩送
 る其議せし此金の英國諸人其取高より其
 乃運上其一年此間取集め以て二百萬ポンドに積ん

其運上ハ一年日本金四百萬以上高を取者より上
 四兩二月一匁なり其も是ハ日本金より其度其入高より
 運上其取上る法ハ其抽でる法より其負人の
 出さるる富人其出さるる此運上ハ時より
 違ひあり或時ハ四兩二月十五匁運上る併しなり
 當時取上る運上ハ凡四兩二月五匁程なり○「エビツシニヤ」
 國其其の軍其方其少し其心配する其事なり又○
 英國軍勢其ニヤ國へ征伐不出るに其副將「メリウ」
 其軍勢乃上陸する處其前以て備へんと其「エー」
 出立せし其外測量方傳信機方寫真方又數多其
 井戸堀此征伐に從へり且其ニヤ國其地形其知者少
 あり故政府より命ありて本草學者其窮理學者其地

理学者等亦此征伐に従ぐべし。○議政堂におかれて金八百
万兩此度に入費に廻すを議せしむるも是より多
く入用あるは必すあり筈と云ふ所出立れ入用は四百
万兩なり此度終らざる間ハ二月二百万兩宛ハ入用に
掛らん其外兵士に手当等ありきれども是ハ印度にて
拂ふ。○諸君に「エシニヤ」國を和せん為此に一圖を設く
次ハ新聞紙に「此圖乃地理系又戦争乃極子」云
ん願くバ別に「エシニヤ」國乃此委しき圖を出さん
前ハ新聞紙に「メチエスト」に於て「フヒ」ハ新に騷
動を起せし。其重なる者三人市街廻り役
人殺害せしに自直に捕へられ吟味ありて其内ハ頭
立し者殺頸くするに決せり英國にてハ人殺せし

者ハ皆此刑罰に行ふ此賊ハ仲間彼等共刑乃此日延を
女王に願へども女王これを許さず「メチエスト」に於て西洋
十月廿三日（本朝）に刑罰に行へり余賊今に至れども其惡
甚なり。遂ん其を平る實に恐るべき事なり。○「リ
ブルプー」（英國北西にあり大なる港）に於て恐るべき事あり「ギリシ」
政府ハ蒸氣船此港を出帆せんとせし時其釜火藥等を數多
乗組百三十七人内四十人死り其外武器火藥等を數多
積込めりし。皆此船ともなぐめりし。○「ゴッゴ」
新らしき船當港へ来る積りよて「ロンド」を出帆し三
日月ヨ「エッテイ」に於て破船せり其船ハ
積荷ハ皆惜むべき物なりども其船ハ但し乗込
乃人の残らず安全なり。○天心ハ吹かざる事なり



大東洋

アジア

印旛海

大西洋

オーストラリア

北緯
南緯

六十
五十
四十
三十
二十
十

六十
五十
四十
三十
二十
十

六十
五十
四十
三十
二十
十

六十
五十
四十
三十
二十
十

甲比丹并び、其他に士官此船を損せし手際を
られ吟味ふゆあり其勤めを
此船を損せし事明白にかり其士官等の誤
し次第を
ライマに云々大軍艦英國を
るにびこモウリニヤスに鳴に中休
夫より日本へ「レジメン」止乃一番大隊を乗て
一月に内に来るべし。○「ハンホルグ」より英國に「リヴ
ルプール」不當着ゆ夫ハ「ヨウロ」に於て最大に象を
其象は重きを料る日本斤にて一万六千八百斤又二足は
駱駝一足はヨリに云々日本は後此形は又師子其外畜類多く
着せり夫は果金にて二万五千兩を買んと庭内に畜置よ

○英國政府に於て甚ど歎しき事あり夫ハ「ソルフレ」
リックブリックに公使をして合衆國に都「ワシントン」
へ行しガ「ポスト」に地を於て急死せり當五十三歳を
なりき此人の英國政府に臣下乃内にて殊更拙で
し人なり二十五年に間公使に役を勤めり香港三
ユウラウドラント「南亞米利加」に止等し國へも行り
其任満て後其兄弟「エルギ」に引連唐國へ趣り
千八百五十八年に頃「天津」唐國に内なり此所を於て
英國に定約を結べり是ハ高名に定約なり此勤
をせしにありて女王「ビクトリア」より褒義を賜ひ
し事あり又其年未だ支那帝へ使者に行き
命ぜり礼し此人は「ワシントン」へ公使を行し近年粟利

加に起り一騷動は是より月て英國と亞米利加乃
間に少く一六ヶ敷是起らんとはせしにありて大あり
公使は役は於てハ尤も拙しむ人故千八百六十五年に
「ワシントン」府へ使者に命ぜられ双方共穏かまは
すこと兩國は人民皆此人乃死し其惜めり○此人北
京城を退しこれより日本へは公使は追變化あり
「ソルセルフォルドアルコック」江戸より北京へ行又「ソルバ
リ」パーク日本に於て「アルコック」は後續と命せられ

佛蘭西國

佛國は帝女帝及び太子「インリヤル」ハ「ロヤリテイ」乃宮
殿に於て秋城過せしガ女帝及び太子危難にあり其

地滞田は間日と近地地海陸にわたり或時帝
女務多くいと倭攻得ず女帝及び太子乃と倭攻
連新築は浪防を見と用意整へ無是は蒸氣船
に乗出船せしガ昼後に至り急に嵐吹来り進む
不能とす遂に陸に戻らんとして蒸氣船より小船
移りたれども甚危く殊に水先案内は者波戸場の
燈り燈見損じ港に入れ路は失ひ山石のひの洲の
間にゆられ此小船は川のへらんせし城案内は者
助々んとしより水の中へ飛入しガ大浪来り小
船は押勢かひよて胸を打仰向し倒れり此混雜
中に又大浪来り船横手押女帝及び其他他人は水
中に落入り併し直に救われり此漁人網を打

居此叫び喧聞来りあれがと絶に各難致救はれし水
先安内れ者ハ胸れ怪我まで速々に死り女帝及び太子
乃無変なりしハ安貞に我輩れ悦ぶ所なり

○前集に云く如く「イタリヤ国に於て「ポプ危き故に佛
国れ帝敬言固れ為兵士三万人并鉄製衣船五艘を司
己^不辨^也に送り「ローマ此兵佛国乃兵と一致し十月六日
^{本月}「モンテロタン^地に於て「ガリバルデー」我龍衣
ハ勝利致得れども「イタリヤ」民佛国此間ハ入
我喜ばず却て佛国我悪む我輩此報告後傳信
機まで得し報告にハ佛兵皆「ローマ」我遠ざけられ
佛国は歸れりと○「パリ」博覧會十月三日^{本月}十月
に終り其榷りれ者より博覧會ハ珍物我納し者

三百千人我卿食應せり此人は内ハ余程高官此人あり
一〇二三ヶ月前ハ「ロシヤ」帝我「パリ」ハ又於て放ち殺さ
ん心謀り「ポウランド」人我「コチ」チマイナレ「サイゴン」殖
民堂して送られり此「コチ」サイゴンハ佛国乃領分なり

フロイセン國

北「セルマニヤ」レシモン止隊改革れ總數百ハ「レヂマン」止る
「セルマニヤ」乃軍艦増んよめに大金せる我政府より
議政堂に談し「ホル」に編れ海軍裁りれ「ミヌ」ト以外
國ハ用連れ為鉄粧船十艘外ハ国内ハ港及び海山片
城護る為鉄粧船十艘 大砲二千八挺積一ツ車ハ「コル」
ツ上^{一船}八艘 十六挺積一ツ車ハ「コル」ウエツ止五艘 急使
船四艘運送船四艘ニツ桅れ船一艘「ブリ」グス^{一船}二艘引船^世

二艘を造らんを議決せり此等乃入費の既に取り掛くる
入費は除きて三千万「ターラ」餘り日本金にて一千七百万兩
なり○北「セルマニヤ」は於て新よまよる議政堂の致
せる故に評議方の更速りあり此度議政堂にて
外国在苗は「コンシユ」の役は英國に例は随ひて此少年
より「コンシユ」の職業を學び一貴人又勤めを志めん
更議一又商人といはく重き役目或勤め一め
す惟輕き役或勤めを志めん更議せり又此度日
本に於て新よに「コンシユ」の所或建人をして日本通用
金にして凡一万五千兩程は金子或得ん更を議せり

ロシヤ國

此國は帝の以前より「ヨウロ」の諸國王と互に婚姻
をなせ一故親一此國多一又此度姫君「ナリヤ」を
「キリシヤ」王に婚姻せ一め此時は義式は十月二十七日
に「シントペートル」ボルグ「シヤ」の都名の宮殿にてあり街にてハ
人民皆大に祝せり

イタリヤ國

「カリバル」デ「カプレ」に送られ一更前集に述單
が又「カプレ」に逃去軍勢を集め彼が子乃「メノツ」カ
「リバル」に下知して「ロ」に攻入ん更を議一已「ポ」
乃軍勢の屢大戦はあつても勝負未だ極らず
「ポ」乃軍勢一時乃勝利を得一により佛國
出陣せざり一「カリバル」に猶威勢を増終に
「ロ」に攻圍むに至り佛帝「ナボレ」に援兵を出さん

夏越急きトシロニ礎より鉄造船送り此夏ハ既ニ佛国ニ
凡三方人此兵士十月二十八日誠十月又上陸トロシ又入りカリ
バルデイ此軍勢カハるずり二万人よりして佛兵并又「ポ
ゴ」兵此大軍少々四時乃間大心ニ戦ひて大敗ばくを
なせり死人怪俄人の合せて三千人將士等ハ皆逃去
しかども「カリバルデイ」ハ又捕へられ「ツジヤ」乃此石を送
られり「歐羅巴」諸国此「カリバルデイ」此捕へられしを
大心ニ失望せしかども「カリバルデイ」兵をとるの時未だ
終らずヨウロツバ此諸國此夏ニ自會合めれども
傳信機を以て得し新聞ハ諸國皆一致して
戦カ夏ハあるまじし「イタリヤ」國王ハ使者を佛
國へつり如何ニ評定せん夏を聞き佛國此申す
せし「イタリヤ」乃人民少しも悦びず却て佛國を
悪めり

アメリカカ国

合衆國にて「ロシヤ」政府より買請たる地城強引せらる
夏に付て去年十月十八日榑哨に義式めり其日此弟
三時榑哨に合衆國此兵大隊奉行乃屋敷此前又
行「アメリカ」人「ロシヤ」人「インド」人「クレナル」此皆義式見
物せんとしてたちあち又集り「ロシヤ」人旗を下る夏を
名襲言よりして「ロシヤ」此若及び軍艦より祝砲を放
ちしが此旗を却さんとせられどもあつて遂に
切「ロシヤ」水夫三人「カイロ」此旗神を倒れぬらんに登り
引ちりてなる網より
し皆旗際逆行夏越得ず今一人登りしめり

旗を握りまゝに放ちて下は投りけりれども未だ旗
地上に落ちぬ風は随ひて去り夫より五三ニテ上相
時分程を合衆国に旗持容易に旗棹に登りて
律に敷き旗を合衆国に港滞留に合衆国に船皆
砲を放ち貴人共娘等数多見物に出しが其
内はロシヤに姫同く見物に出しロシヤに旗失しに
依て大はは泣きしや此義我式のシツカ嶋にニテアーケ
ンシエに放てありニテアーケンシエに此度新にア
レスカと名する地乃都となり是より盛んとなりん
まは信す

西印度国

「シントトウマ」にて十月廿九日譯十月 恐るべき颶風来りて

商人利を得んやあて外国人損失せざるまは願ふ
及令外国人の商じまは願ふとんども日本人に
これ願ふ者少なるべし。○大坂の繁栄は地にて
且交易も中興なるも近国騒ぎゆへ利益
少るべし。○右開港はまは自我非車は悲心歎する
慶の英國海軍「リウテナント」亞国海軍外科医又
英國「コンシユル」マイブルグ」皆急死せり又或日亞国
水師提督天保山川口に至りしが浪荒くして
小船顛倒し水師提督及ハ海軍「リウテナント」
水夫十人溺死せり其前夜英國水師提督及ハ
士官数人同所乗し一時も甚だ危かりしが幸
いに佛国に「ゴプレー」に船近きにありて是より繩を

ツリ水師提督乃小蒸氣船は是に少く隔り
艦北方に困りてあり数刻止まり内荒浪よて
小蒸氣船乃火燄消礼尚運動さる支燄得む
ト一匹船の水師提督及ふ其他れ今は食物を与へんと
繩傳ひよて送りさるやくにして無難なり
○外国人のつぎ合燄廣く日本交易盛ん
なるん支燄布ハ

當時乃形勢力譬へむか

獅子と熊死する廉燄見出る互に取んとて永く
争ひ遂に両方共半死半生になり目くら倒れ居るがッ
乃方より狐来候子燄穴覗ひ皆勞を見密に彼廉を
奪ひ去り獅子此を見何者我等カ燄弱此狡猾狐の珍味取よと
大飛脚船四艘燄崩し其外五十艘は船陸に突上られ
死人の海陸ともに多し

ハロイ嶋 即「サンドウイキ」嶋

此嶋は民「ウエニリ」止候に送り日本産物燄大に
歡べり此産物の「ミ子」に積十月廿日日本明に
着せり此品は内は雑穀類ひるは類其外茶樹
椿樹橙樹柿樹桑樹松樹艾茶種菜種百合等あり
此燄は本は日本国東海道に並木にあり植有るよ
「ウエニリ」トハ日本国に於て「サンドウイキ」嶋は「コンシユル
セ子」トハ少なりハ日本人并に「サンドウイキ」人れとめ
幸ひ此燄なるん此人は双方は人民に信切にして
行届き一人なりハ兩國は大益なり

外國人兼て望みし兵庫并大坂に開港の旨新年
 元日^{日本正月}に諸國にコンシユル館に旗幟揚且午
 乃刻より軍艦毎に祝炮せり然るに右に場所
 開港後商賣のさがる或失望す只外國人彼地之行
 ざる前に急ぎし大心之愚よりし○支那の
 諺に「堪忍せよ桑は葉の細子に成」と云し去
 とゆり是にゆりて考ふれば外國人の蒸氣船蒸
 と氣車又ハ傳信機を以て便するところも日本人
 一般に諸事遅るる法也以て支那りとて又都て
 多年に掛りて為を常とせりたり○外國人押願
 みて兵庫并大坂へ速に交易を開く時ハ其地の

私儀元来和蘭海軍医の處先年より貴國江在苗医術
 開業仕諸藥品并益穢等十全に設備有之内外科男女小兒共
 治しむるに證且慢性諸病等一切手厚に療治仕は尚又眼科を
 以て多年研究仕新規に方術能心得眼科に係りは近世發明乃
 新藥及益穢も所持罷在毎日九ツ半時より一時迄療治仕は
 且眼病に貧民より多分は禮謝を受ず聊貴國に恩儀為
 報謝療養仕度間各遠路を不厭脚未駕之程希ふ

横濱八十一番

デマイエル

外國へ抱られし日本人に義人品を度び召使又抱入度存い
 附てハ三人に請人候以て運上所へ願出度奉存い
 思召に御方拙宅迄御為知可被下い

横濱

百一番

各國公使館用兵此為牛肉店高輪へ開い處即菜用
者諸家様より所用被作付日増繁榮仕遠路
運び出来兼い付今般柳原へ出張賣弘申しる
沃山所買取の程奉願い

江戸柳原請負地

中川屋 某

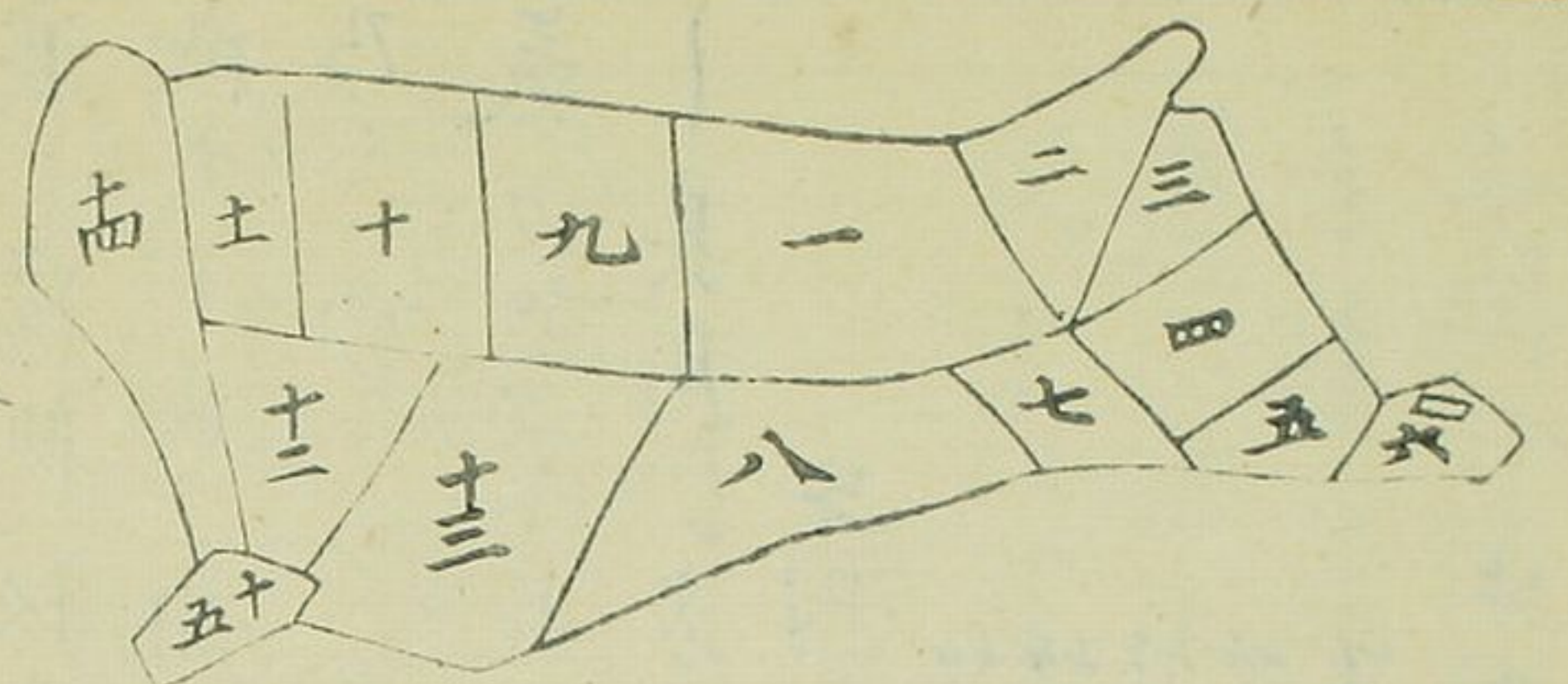
今般舶来武具測量器外科器時斗衣服香雷
竹官彈藥包其外一切相働下直之差上可申し間大
小より御用向被仰自度且外国へ御注文諸品の
義同店横濱住居伊勢屋勝郎方にて所世話申上
江戸中橋中通埋立地 伊勢屋 佐七

横濱九町住居此中川屋某此度江戸高輪英吉利館
波戸場側之仮宅を閑さ肉類賣出しを肉は性を撰
成丈下直之高内致し扱牛肉ハ健康なる体宜しき
乃之ゆへに虚弱又ハ病身の人或ハ病後之食せられバ
氣力増身身体之壯健をも依て牛肉乃全体を圖り顯ハ
一其用い方を委し知申す何卒澤山買取取玉ふ希ふ

牛肉部分乃善悪より分て五等に分

- 第一等 一二九
- 第二等 四七十一
- 第三等 三五八十二三
- 第四等 十四
- 第五等 六十五

牛肉部分乃圖及び用い方此次第



- | | |
|------------|------------------------|
| 一 腰ノ部 | ロースト |
| 二 尾先ノ部 | ステーキ |
| 三 尾下ノ部 | ボイル |
| 四 尻 | ボイル |
| 五 尻下ノ部 | ボイル。ステーキ |
| 六 膝ノ部 | ステーキ |
| 七 厚子ノ脇腹 | ボイル |
| 八 薄子ノ脇腹 | ボイル |
| 九 前ノ肋骨五枚 | ロースト |
| 十 中ノ肋骨四枚 | ロースト |
| 十一 肩側ノ肋骨二枚 | ステーキ |
| 十二 肩下ノ部 | |
| 十三 胸 | 塩漬にしてボイル。ステーキ |
| 十四 項頸 | スープ。クレウ。ストック。パイ。サウゼン。用 |
| 十五 脛骨 | |

高輪英吉利館波戸場側

中川屋出店

今般アヌリカより秘旨本類取寄申上右之内「イギリス」
 字典スペリシテブックリール地理書歴史文章軌範地躬理書
 ウブストルス、テクシヨ子リール等内在るを買求之程を希い

横濱海岸通二番

ウヲルル社中

私儀此度百七十三番引移ライフル銃彈菜其外品、高内仕
 且金子之儀ハ日本通用一分銀にて取引仕上○金子借用被成
 度方ハ所而掛付品物引當、由用達可申上○如何様乃品
 子ても注交有之い、ヨウロバ、又アメリカ、より取寄可申上
 ○大坂又ハ兵庫へ荷物手運送被成度、方ハ百七十三番、後
 店へ出被下度、希い

横濱埋地百七十三番

アルクハル

黒羅紗上着

全 短衣

全 股引

全 白短カギ上着

全 麻股引

全 短衣

右の品、恰好、仕立、差、上、の、る、所、注、文、を、願、ひ、

高名なる「ミル子」此社鉄張箱の社以盗賊并失火の節

極大丈にて大小色々の社以の求を願ひ

横濱二番

ウアルシホル

パン、ピスケット、ボトル此品私店この社以の求を願ひ

横濱元町一丁目

中川屋嘉兵衛

十四ドルより二十ドル迄

四ドル

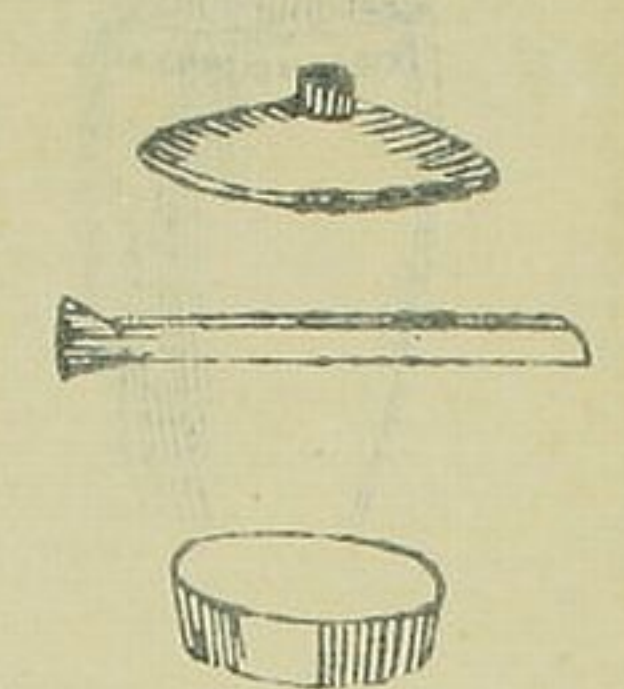
七ドルより八ドル迄

二ドルより三ドル半迄

三ドル

金緑の義の好次第

ラダーシ



ペーテント

フルエムベ

ゴクルシフル

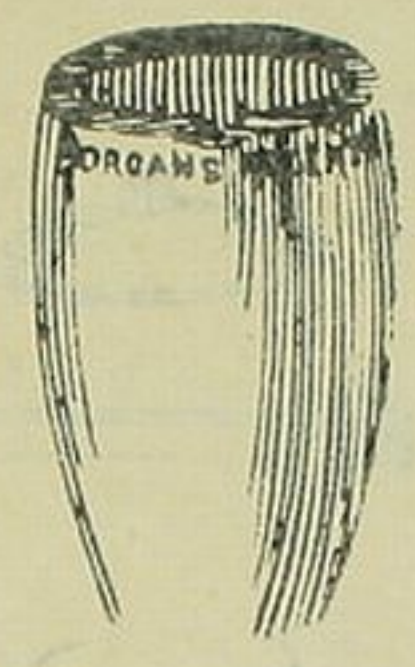
コムパニー

此鉗鍋乃儀ハ兼テ博覧會日に出
セーニ甚ダ稱羨致されハイギリ
ス「フランス」并テ諸國乃金銀座
數年来相用ハ其品ハ比日並ニ乃
品よりハ余程久ク烈火の上ニ置
いても破れナキ金銀銅等銘ハ
四十度五十度殊ニこれハ百度位ハ迄
相用ハ申ハ又火よりおろシ次第ニ
水に入いても破れ不申鋼鉄を銘
ハ以外ニ通例乃品よりハ出乃費
ハ減省キ千斤乃鋼鉄を銘ハ

ロンドン

ハッテルシー

制衣造所



千五百斤此炭相余り且速に鋸
 申以幾度も張用の故鋸に鉗鋸
 余り自以費ル少くい費へと首こみ所
 せ山灰乃余りを計りいへ夫がうりよても
 此鉗鋸に價いよりい余計に所をい尤
 も大サハ所好次第十五文よりい何斤入
 も拵へハい分量ハ壺に相記し申い
 此印ハ手前制衣造の印にてい
 左様所兼知可被下い
 横濱 ボイル
 長崎 ニルソニアンドボイル



英國教師ベリリー先生日本貴公子ノ英学
 ニ志アル者ニ教授セント欲ス先生子弟ノ教
 育ニ熟識慣ヒリ先生英國「カンブリッヂ」大
 学校ニテ修業シ此大学校ニテ学藝上達
 ノ為ニ多クノ褒賞ヲ得タリ故ニ十分ノ教授
 ナルヲ得ルナリ若シ已ハコトヲ得ズシテ英
 國ニ趣カント欲セバ又為ニ周旋スベシ教授料ハ
 多クニ受ケズ又西洋書々籍所持セザル者ニハ
 別ニ料ヲ受ズシテ借シ教ユベシ

横濱

百一番

横濱海岸通三十番

へツト

今太田町三丁目

大黒屋茂兵衛

今駒形町

伊勢屋勝郎

今弁天通五丁目

師岡屋伊兵衛

江戸和泉橋

大倉屋喜八郎

江戸日本橋室町三丁目

丸屋保三郎

江戸中橋中通埋立地

伊勢力屋佐七

大塚齊橋筋

綿屋喜兵衛

京都四条通御幸町角

莱山堂三郎助

箱館

デユース

長崎大浦

ソイス

大坂并兵庫に住

シヌシ

071
05

發

行

書

肆

英國教師ベリリー先生日本貴公子ノ英学ニ志アル者ニ教授セント欲ス先生子弟ノ教育ニ熟慣セリ先生英國「カンブリッヂ」大学校ニテ修業シ此大学校ニテ学藝上達ノ為ニ多クノ褒賞ヲ得タリ故ニ十分ノ教授ヲ与フル事ヲ得ルナリ若シ已合トヲ得ズシテ英國ニ趣カント欲セバ又為ニ周旋スベシ教授料ハ多クニ受ケズ又西洋書竹籍所持セザル者ニハ別ニ料ヲ受ズシテ借シ教ユヘシ

横濱

百一番

肆書

横濱本町通五十一番

ハルトリ

江戸日本橋室町丁目

丸屋源三郎

今太田町三丁目

大黒屋茂兵衛

京都四条通御幸町角

菜山堂三郎助

今駒形町

伊勢屋勝郎

箱館

デエース

今弁天通五丁目

師岡屋伊兵衛

長崎大裏

ケイス

江戸和泉橋

大倉屋喜八郎

071
05